

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103A	卒業研究(小関直美) Graduation research	小関直美		専門	4	必修	3・43年後期・4年前期
科目の概要							
DP①～③の実践を目指して、給食施設における課題や大量調理に関連する研究テーマで研究をすすめる。研究テーマの検討、研究の進め方、研究のスケジュール、研究の進捗状況、お互いの研究に対する意見交換などを定期的に行い、全員がお互いの研究を知り、協力して進める。							
学修内容				到達目標			
① 研究の目的を明確にする ② 研究の意義を明確にする ③ 正しい研究結果を導き出すのに必要な手順を学ぶ。 ④ 研究結果を明確に伝える手法を学ぶ。				① 研究の目的を説明できる ② この研究で何が得られるのかを説明できる ③ 疑義が出ない、正しい研究手順を構成できる。 ④ 結果の意図することや重点を明確に発表できる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	提示された研究事例から自分の研究テーマとその実施方法を考え、実行する。					
	働きかけ力						
	実行力	研究の計画を立て、手順通りに実施できる方法を考え、コーディネートする。					
考え抜く力	課題発見力	計画の段階と実施中に問題点を抽出し、成果を出すための課題を見つけ出す。					
	計画力	研究の成果をまとめることを想定し、確実に実施できる内容を計画することができる。					
	創造力	先行研究を踏まえ、自分の独創的なアイデアを盛り込んだテーマに発展させる。					
チームで働く力	発信力	研究の成果を、正しく理解、評価されるような形で、明確に伝える。					
	傾聴力	研究室内のディスカッションで、相手の伝えたい内容を、よく聞き取り、自分の意見を伝え、相手が発言しやすい雰囲気を作る。					
	柔軟性						
	状況把握力	研究の成果をまとめるための環境が整っているかどうかを判断できる。					
	規律性	研究における約束事を守り、学生同士の連携が必要な研究の障害にならない。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
参考書：研究テーマに沿った学術書、雑誌、研究論文等							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：給食経営管理論、調理科学、食品学、基礎栄養学、応用栄養学、公衆栄養学、在宅栄養管理論 資格との関連：栄養士、管理栄養士、栄養教諭							
学修上の助言				受講生とのルール			
各給食施設、大量調理科学の特徴および現状を可能な限り理解した上で、課題を発見し研究を進めるとよい。				全員がお互いの研究を理解し、意見を交換しながら進めていく。お互いの認識の違いは研究を進める上で支障をきたすので、コミュニケーションを密にし、助け合うことを研究室の原点とする。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①		期末試験は実施しない。	
				②			
				③			
				④			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
		レポート		50	①	✓	卒業論文のテーマの選定、精度、論文の文章の構成、図表は分りやすく適切であるか等を評価する。
					②	✓	
③					✓		
④					✓		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）			40	①	✓	研究発表会でのプレゼンテーションの説得力、見やすさ、聞きやすさ、説明の分りやすさ、質問に対して的確な返答ができたか等を評価する。	
				②	✓		
	③			✓			
	④			✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性） ・与えられた課題にむけたアクションを自ら実行することができる。 （実行力） ・計画だけでなく、具体的な行動を実施することができる。 （課題発見力） ・研究成果の有用性を高め、より高い評価を受けるためには何が必要かを考えることができる。 （発信力） ・研究の目的や意義、有用性をわかりやすく効果的に伝達することができる。 （創造力） ・初めから研究に枠をはめることなく、独創的な視点を忘れずに発想の転換を図ることができる。 （傾聴力） ・助言者、学生同士での話し合いで、相手の話を理解し、双方が自分の考えを率直に話し合える環境を作ることができる。 （規律性） ・研究室でのミーティングでの約束を重視し、お互いの研究手順を阻害することのない行動をとることができる。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
研究内容が明確で卒業論文および研究発表が、斬新かつ高度で有用性が高く、論文、発表ともに周囲の意見も取り入れた高度な表現力とプレゼンテーションであるときはS(秀)とする。研究内容の有用性が高く、研究発表の内容も周囲の意見を取り入れていて、明確で説得力があり、かつ具体的であればA(優)とする。	研究の目的が理論的かつ明確であり、研究成果は有用性がある内容で、卒業論文および課題研究発表ともに、周囲の意見も参考にしており、明確で説得力があればB(良)とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-18	研究の目的と意義の検討 仮説の設定と研究計画の立案 研究の実施	ディスカッション グループワーク 質問等はgoogle classroomを使用する	研究について、目的や意義、予測を説明できる。 進捗状況と計画について、ミーティングで発表できる。 他の学生の研究に協力し、自分の意見を言うことができる。	予習：先行研究を調査する。 復習：研究の関連資料を調査する。	540	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
19-26	研究の実施とまとめ 結果データの分析 有用性と課題の検討	ディスカッション グループワーク 質問等はgoogle classroomを使用する プレゼンテーション	研究成果について、ミーティングで説明できる。 研究成果をスライドにして発表できる。 他の学生の研究発表について、自分の意見を言うことができる。	予習：研究内容に矛盾がないか、何が要点かを調べる。 復習：発表のリハーサルをする。	720	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
27-30	研究内容のまとめ。 研究論文の著作。	ディスカッション グループワーク 質問等はgoogle classroomを使用する	論文を指定の要綱通りに作成できる。 他の学生の研究成果と論文について、自分の意見を言うことができる。	予習：先行研究の論文を調べて、自分の論文の構成を考える。 復習：研究を論文にまとめて提出する。	720	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103B	卒業研究(松波勝) Graduation Research	松波勝			4	必須	3後期・4前期3年後期・4年前期

科目の概要

本科目では、DP2、3に示される「豊かな食生活と健康を創造することができ」、かつ「常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献できる」ことをめざしつつ、スポーツ活動や健康運動のサポートができる管理栄養士を育てることをめざします。また、卒業研究を通して、社会人基礎力の一つである「課題発見力・解決力」を養ってゆきます。

- そのために以下のことについて、取り組んでゆきます。
- (1) 健康科学・スポーツ科学・栄養科学に関わる学術文献の収集・講読。
 - (2) 文献研究における課題発見、解決のプロセスを学習。
 - (3) 栄養と健康・栄養とスポーツに関わる課題を設定し、解決に取り組む。
 - (4) その成果を卒業研究論文としてまとめ、発表する。

学修内容	到達目標
① 文献研究（学術文献の収集および講読）。 ② 文献研究から課題を発見し、「問い」を立てる（テーマの設定）。 ③ 文献研究で獲得した知識を活用し、課題を解決する（「問い」に対する「答え」を探す） ④ 課題を発見、解決のプロセスを論文としてまとめる（卒業研論文の作成） ⑤ 卒業研究論文の発表。	① 学術文献が収集し、学術研究の手法が理解できる。 ② 課題の発見からテーマを設定し、課題を解決し、論文にまとめることができる。 ③ 研究成果を伝える技術（プレゼンテーション）が実践できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	自ら必要な情報を収集しながら、研究に取り組むことができる。
	働きかけ力	周囲と協同して研究に取り組むことができる。
	実行力	立案した計画に基づき、研究に取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	得られた情報や結果から課題を発見することができる。
	計画力	計画的に研究や論文執筆、成果発表に取り組むタイムマネジメントができる。
	創造力	得られた研究結果から新たな知見を考えることができる。
チームで働く力	発信力	論文作成、研究発表など研究成果の公表および論理的な討論ができる。
	傾聴力	論文紹介やディスカッション、成果発表では、発表者の話をよく聞き、意見や質問がある場合には積極的に発言する。必要なことは必ずメモを取る。
	柔軟性	相手を尊重して意見交換することができる。
	状況把握力	周囲と協同して研究やディスカッションできるよう行動できる。
	規律性	無断欠席、遅刻などゼミ活動に支障をきたす行動をせず、ルールを守ることができる。提出物を期限までに提出できる。
	ストレスコントロール力	何事も自己成長の機会だとポジティブにとらえた行動ができる。

テキスト及び参考文献

テキスト:なし（必要に応じて、資料、文献、書籍を提示する）
 学術資料データベース:J-Stage、CiNii、PubMed、Google Scholar等を活用する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：学修した全ての履修科目と関連する
 資格との関連：管理栄養士、栄養士、健康運動実践指導者

学修上の助言	受講生とのルール
--------	----------

卒業研究は、大学4年間の集大成となる学びであり、その成果は学泉で学んだ証になります。進めるにあたり、様々な壁にぶつかることもありますが、探究心を持ち真摯に取り組むことで、楽しさが見出せると思います。自己の成長のためにも粘り強く取り組みましょう。	卒業研究を実践する研究室の一員であることを自覚し、活動に際しては、決められた約束・予定を守るなど責任を持った行動を実践しましょう。また、挨拶をはじめ、報告、連絡、相談は欠かさず、仲間と協力し合いながら取り組むことを期待します。
--	---

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
			②				
			③				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
		レポート	60	①		✓	卒業研究論文の最終稿を持って評価する。 (1) 指定された書式に従い、誤字・脱字なく、分かりやすい文章であるか。 (2) 科学的根拠にもとづき研究目的が設定され、かつ独創的であるか。 (3) 文章は論理的に書かれ、不整合や飛躍はないか。 (4) 表やグラフは分かりやすく示せているか。脚注の表示もされているか。 (5) 結論が社会的あるいは学術的に意義のある知見を含んでいるか。 (6) 引用文献数が10以上使用しているか。
				②		✓	
	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	30	①	✓		研究発表会の内容および質問対応を評価対象とする。 (1) 発表用のスライドは分かりやすく構成できた。 (2) 制限時間内に分かりやすく話せた。 (3) 聞き取りやすい音量で発表できた。 (4) 原稿を見ずにプレゼンテーションできた。 (5) 質問には的確に答えられた。	
②			✓				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	卒業研究論文作成に取り組む姿勢を評価対象とする。 (主体性) 自ら研究の「問い」を立て、「答え」を探求することができる。 (実行力) 立案した研究計画を実行することができる。 (課題発見力) 文献研究から研究課題を見つけることができる。 (計画力) 研究遂行のためのタイムマネジメントができる。 (創造力) 得られた研究結果から新たな知見を考えることができる。 (発信力) 研究の成果を周りの人にわかりやすく伝えることができる。 (傾聴力) 研究室のメンバーや教員の意見を聴き、自身の研究に繋げることができる。 (規律性) 研究室のルールを遵守し、期限を守ることができる。		
			②	✓			
			③	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S(秀)の基準：学修評価及び学修行動評価の得点率が 90%以上</p> <p>A(優)の基準：学修評価及び学修行動評価の得点率が 80%以上、90%未満</p>	<p>B(良)の基準：学修評価及び学修行動評価の得点率が 70%以上、80%未満</p> <p>C(可)の基準：学修評価及び学修行動評価の得点率が 60%以上、70%未満</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	○オリエンテーション	演習(説明) グループディスカッション	卒業研究の進め方を理解する。	(予習) シラバスを読んで、卒業研究の概要を確認する。 (復習) 研究ノートを作成して、卒業研究の進め方を整理する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	○文献検索(先行研究の調査)	演習(説明、情報収集)	興味のある研究テーマの先行研究を調べることができる。	(予習) 興味のある研究テーマを考える。 (復習) 研究ノートを作成して、テーマの概要を整理する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3-8	○文献検索、論文講読、文献一覧の作成	演習(説明) グループディスカッション	(予習) 興味のある研究領域の文献を調べ、1つ挙げておく。 (復習) ディスカッションで得られた情報を研究ノートに整理し、課題を検討する。	○研究テーマ、目的の検討	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
9	○文献研究より研究テーマおよび目的(問い)を立てる。	演習(説明) グループディスカッション	研究テーマおよび目的(問い)を立てることができる。	(予習) 文献研究より研究テーマを考える。 (復習) ディスカッションで得られた情報を研究ノートに整理する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10-11	○研究計画、実験計画の検討	演習(説明) グループディスカッション	研究計画書を作成できる。	(予習) 文献研究より研究計画および実験計画を考える。 (復習) ディスカッションで得られた情報を研究ノートに整理する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12-14	○予備実験・調査およびデータ整理	実習(実験・調査、データ分析) グループディスカッション	予備実験・調査を実施し、データを整理する。	(予習) 実験計画から予備実験・調査のスキーム作成 (復習) 予備実験で得られたデータを研究ノートに整理する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	○予備実験・調査の振り返り(中間発表1)	演習(説明) プレゼンテーション グループディスカッション	研究計画の見直し、再設定ができる。	(予習) 予備実験で得られたデータをまとめ、発表用スライドの作成。 (復習) 研究計画の改善点研究ノートに整理する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16	○研究計画、実験計画の再検討	演習(説明) グループディスカッション	研究計画書を再作成できる。	(予習) 予備実験の振り返りより研究計画および実験計画の改善を考える。 (復習) ディスカッションで得られた情報を研究ノートに整理する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
17-19	○本実験・調査を実施し、データを整理する。	実習(実験・調査、データ分析) グループディスカッション	実験・調査を実施し、データを整理する。	(予習) 実験計画から本実験・調査のスキーム作成 (復習) 予備実験で得られたデータを研究ノートに整理する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
20	○本実験・調査の振り返り(中間発表2)	演習(説明) プレゼンテーション グループディスカッション	実験および調査データをまとめて発表できる。	(予習) 本実験・調査で得られたデータをまとめ、発表用スライドの作成。 (復習) 発表会で得られた意見や考えを研究ノートに整理する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21	○研究論文の書き方	演習(説明) グループディスカッション	研究論文執筆において、構成や書き方について説明できる。	(予習) 研究論文の書き方について、確認する。 (復習) 研究論文の書き方の要点を研究ノートに整理する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
22-26	○研究論文の作成	演習(研究論文の作成) グループディスカッション	討議を通して研究論文をまとめ、作成・提出できる。	(予習) 文献研究を振り返り、研究論文を作成する。 (復習) 作成した研究論文の体裁について確認する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
27-28	○発表用抄録の作成	演習(抄録の作成) グループディスカッション	討議を通して抄録をできる。	(予習) 抄録作成にあたり、研究論文を確認する。 (復習) 作成した抄録の体裁について確認する。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
29-30	○発表スライドの作成と発表練習	演習(スライド作成) プレゼンテーション グループディスカッション	発表用のスライドを作成し、発表できる。	(予習) 研究論文、抄録を確認する。 (復習) 発表会に向けた発表練習を繰り返す。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103C	卒業研究(石川桂子) Study for Graduation Thesis	石川桂子			4	必修	3・43年後期 4年前期

科目の概要

DP2に記載している疾病・疾病予防・食育に関する専門知識・技能を身につけ、豊かな食生活と健康を創造することができる管理栄養士を育成する過程を通して、DP1の建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得し、職場と地域の人々と協働して課題を解決していこうとする態度を身に付けます。また、これらの学修を通してDP3にあるように自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる基礎を築きます。

卒業研究では、今まで修得してきた知識や技能を生かして、給食が抱える食生活上の課題を見つけ課題を解決するための方法を考え実践し、実践方法について検証していきます。または、調査から得られたデータを基に健康的な生活を送るための生活習慣等について研究していきます。得られた研究成果を解析し、考察して論文としてまとめて発表し、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる管理栄養士を目指します。これは「管理栄養士特論C」を修得する基礎となります。

学修内容	到達目標
① 研究テーマの設定方法を知る。 ② 研究データの収集方法について考える。 ③ 研究データの解析方法を知る。 ④ 卒業論文の執筆について調べる。 ⑤ 卒業研究を発表し、質疑に応答する。	① 研究課題を見つけ、研究方法を設定することができる。 ② テーマに沿って適切な方法でデータや資料を収集することができる。 ③ 研究データを解析することができる。 ④ 研究結果を活用して課題解決につながる考察し、論文としてまとめることができる。 ⑤ わかりやすいプレゼンテーションで卒業研究を発表し、質問に答えることができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	自ら課題を見つけ、課題解決のための方法を考え、より良い食生活を提案することができる。
	働きかけ力	
	実行力	研究テーマについて有効な手立てを考え実践することができる。
考え抜く力	課題発見力	得られた結果から課題や問題を見出し、科学的な根拠に基づいて考察することができる。
	計画力	
	創造力	設定した研究テーマについて独創的なアイデアで研究計画を立案することができる。
チームで働く力	発信力	仲間や教員と研究方法や結果などについて話し合ったり結果を報告したりすることができる。
	傾聴力	仲間や教員の意見を整理しながら聞き取り、質問をすることなどで活発なディスカッションをすることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	決められたルールを守り、発表や論文を作成できる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

参考書：食に関する指導の手引き(文部科学省)他すべての教科書

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：これまで履修したすべての科目

資格との関連：管理栄養士、栄養士、栄養教諭

学修上の助言	受講生とのルール
様々な方々の助けを借りて卒業研究を行います。今までの学修してきた内容はもちろん、社会人基礎力も試されます。その意味でも卒業研究は4年間の集大成です。今まで気付かなかった自分の課題と向き合って大学生生活のまとめとしてください。	研究室は仲間や教員と運命共同体です。研究の方法や結果、解析、発表、論文作成などどんな場合も意思の疎通を密にして助け合うことをルールとします。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
レポート			60	①	✓		
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤			
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		30	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④				
			⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>A(優)は、B(良)に加えて卒業論文で研究の目的と結論が明確に述べられていること、図表類が分かりやすく適切に作成されていること。卒業研究発表では、発表力があること。</p> <p>S(秀)は、A(優)に加えて、卒業論文では研究の背景や意義、方法や考察が的確に記述されていること。卒業研究発表では、発表要旨がよくまとまっており、質問に対して的確な受け答えができること。</p>	<p>卒業論文では、論文としての必要最低限の体裁が整い文章が論理的かつ明快でわかりやすく、卒業研究発表では、研究の内容をよく理解し、発表の媒体がわかりやすく適切であること。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-4	オリエンテーション 研究テーマの設定	討議 課題のフィードバック google classroomによる質問の受付	研究テーマを設定することができる。	(予習) 論文を検索し知識や理解を深める。 (復習) 研究内容に関する論文、討議内容をノートにまとめる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5-8	文献検索・論文読解 研究目的の設定・発表	講義 討議・演習 発表 課題のフィードバック google classroomによる質問の受付	研究の目的や方法を説明できる。	(予習) 論文を検索し知識や理解を深める。 (復習) 討議内容をノートにまとめる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
9-12	研究の計画作成 調査の準備	討議・演習 課題のフィードバック 調査 google classroomによる質問の受付	研究の計画書を作成できる。 打ち合わせ資料を作成できる。 調査するために必要な資料等をそろえることができる。	(予習) 研究の計画書を作成するための準備をする。 (復習) 打ち合わせ資料等を作成する。必要に応じて媒体等の作成、指導の練習を行う。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 状況把握力
13-16	研究の遂行 調査・集計	討議・演習 調査・データの分析 課題のフィードバック google classroomによる質問の受付	研究の計画に沿って調査をすることができる。 得られたデータを統計処理することができる。	(予習) 調査方法を確認する。 (復習) 疑問点などを調べ、まとめる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
17-20	データの解析 中間発表	討議・演習 発表 課題のフィードバック google classroomによる質問の受付	研究の目的や調査方法を分かりやすくまとめ、中間発表として発表できる。	(予習) データの統計処理の方法について調べる。中間要旨の作成方法を調べる。 (復習) 解析結果をまとめ、疑問点などを調べ記録する。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21-24	研究の考察 研究発表要旨の作成	討議・演習 発表 課題のフィードバック google classroomによる質問の受付	統計解析したデータをもとに研究の考察をすることができる。	(予習) 研究発表要旨の作成方法を調べる。 (復習) 解析結果をまとめ、結果の考察をする。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
25-30	研究発表の準備 論文執筆	討議・演習 プレゼンテーションの準備 課題のフィードバック 論文作成 第30週はオンデマンド配信	研究した内容を分かりやすくプレゼンテーションできる 論文の書き方を説明できる。 論文を決められた形式でまとめることができる	(予習) 論文の書き方やまとめ方を調べる。 (復習) 指摘事項の改善と発表練習をして、より良い卒業論文を執筆する。	540	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103D	卒業研究(内田友乃)	内田友乃			4	必修	3・43年後期・4年前期

科目の概要

DP1,2に記載されている職場と地域の人々と共同して課題を解決していくことができる、必要な疾病・疾病予防・食育に関する専門知識・技能を身に付け、豊かな食生活と健康を創造することができる管理栄養士の育成を目指します。また、DP3掲載の自立した社会人として、社会に貢献できる人材となるため、常に自らの可能性を高めて自己研鑽に励むことができるよう、学修への姿勢を通して、4年間での学修の集大成として研究を遂行します。各自でテーマを決め、研究方法や実施計画を行い、その計画に沿って実行して得られた成果を研究発表会および卒業論文として発表します。

学修内容	到達目標
① 解決すべき現象・問題・疑問事項を整理し、研究課題を明らかにする。 ② 研究課題を絞り込み、研究目的を明らかにする。 ③ 研究目的に沿って研究計画を立てる。 ④ 研究計画に沿って研究を遂行し、データを収集して分析を行う。 ⑤ 研究によって得られた結果をまとめ、論文および要旨を作成し、口頭発表を行う。	① 解決すべき現象・問題・疑問事項を整理する手法を習得できる。 ② 研究課題および研究目的を自ら決定することができる。 ③ 研究目的に沿った研究計画を自ら立てることができる。 ④ 研究計画に沿って研究を遂行し、データ収集および分析を教員指導の下実践することで、そのスキルを管理栄養士として活躍する際に生かすことができる。 ⑤ 得られた結果を基に論文および発表資料を他者に分かりやすく完成させることができ、そのスキルを管理栄養士として活躍する際に生かすことができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	教員からの指示通りに実施するだけでなく、疑問点に対して自ら行動を起こし、研究に望むことができる。
	働きかけ力	教員や研究協力者に対して、援助や助言がもらえるよう行動することができる。
	実行力	立案した研究計画に沿って研究を遂行することができ、状況に応じて、計画の変更にも対応することができる。
考え抜く力	課題発見力	研究結果を予測し、なぜそのような結果になったかを事実に基づいて見極めることができる。
	計画力	研究遂行に向け、具体的な計画を立てることができる。
	創造力	研究結果を多角的に分析することができる。
チームで働く力	発信力	研究発表会で分かりやすい発表ができる。
	傾聴力	教員や研究室メンバー意見との交換を活発にし、理論的に自分の意見を述べることができる。
	柔軟性	得られた実験結果などをあらゆる文献や知識を利用して考察することができる。
	状況把握力	研究の進み具合を適宜確認し、遅れていたり、不足している点があれば計画修正の話し合いが教員とできる。
	規律性	研究室のルールを守り、無断欠席、遅刻等、研究に支障をきたす行動をせず、事故がないよう、周りにも配慮しながら研究に取り組むことができる。期日に卒業論文が提出できる。
ストレスコントロール力	研究が思うように進まない時はその原因をよく考え、次の行動に移すことができる。	

テキスト及び参考文献

研究テーマに応じて、必要な書籍や文献、資料を提示する。

他科目との関連、資格との関連

これまで学修したすべての科目が関連する。
 関連する資格：栄養士、管理栄養士、栄養教諭

学修上の助言	受講生とのルール
これまでに学修した内容の集大成という気持ちを持って、自身の研究課題に取り組むこと。研究は教員からの指示を待つのではなく、自分から意欲的に取り組み、常に疑問を持って研究に励むこと。研究を楽しみながら遂行して欲しい。	卒業研究は、主体的に学ぶ意欲がないと遂行することはできない。また一人で遂行することもできないため、研究室の一員としての自覚を持って、教員と他のメンバー全員で協力して行うこと。研究室のルールや約束を必ず守り、教員との報告・連絡・相談を忘れないこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
			⑤				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
		レポート	45	①	✓		卒業論文の最終稿を持って評価する。 ・指定された書式に従い、誤字脱字なく、分かりやすい文章であるか。 ・研究の目的が明確で、科学的根拠に基づいた研究がなされているか。 ・文章は論理的に書かれ、不整合や飛躍はないか。 ・表やグラフは分かりやすく示しているか。 ・結論が社会的あるいは学術的に意義のある知見を含んでいるか。 論文の評価については、知識の獲得10%、活用30%、解決60%とする。
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤			
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	45	①	✓		研究発表会の内容および質問対応を評価対象とする。 ・発表用のスライドは分かりやすく構成できたか。 ・制限時間内に分かりやすく話せたか。 ・質問には的確に答えられたか。 ・発表準備には指導教員と十分な協議をしたか。 研究発表の評価については、知識の獲得10%、活用30%、解決60%とする。		
		②	✓				
		③	✓				
		④	✓				
		⑤					
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	主体性:教員からの指示通りに実施するだけでなく、疑問点に対して自ら行動を起こし、研究に望むことができる。 働きかけ力:教員や研究協力者に対して、援助や助言がもらえるよう行動することができる。 実行力:立案した研究計画に沿って研究を遂行することができ、状況に応じて、計画の変更にも対応することができる。 課題発見力:研究結果を予測し、なぜそのような結果になったかを事実に基づいて見極めることができる。 計画力:研究遂行に向け、具体的な計画を立てることができる。 創造力:研究結果を多角的に分析することができる。 発信力:研究発表会で分かりやすい発表ができる。 傾聴力:教員や研究室メンバー意見との交換を活発にし、理論的に自分の意見を述べることができる。 柔軟性:得られた実験結果などをあらゆる文献や知識を利用して考察することができる。 状況把握力:研究の進み具合を適宜確認し、遅れていたり、不足している点があれば計画修正の話し合いが教員とできる。 規律性:研究室のルールを守り、無断欠席、遅刻等、研究に支障をきたす行動をせず、事故がないよう、周りにも配慮しながら研究に取り組むことができる。期日に卒業論文が提出できる。 ストレスコントロール力:研究が思うように進まない時はその原因をよく考え、次の行動に移すことができる。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
卒業論文は、体裁の整った文章であり、研究の目的が明確で、科学的根拠に基づいた研究がなされている。論理的な文章展開で、図表も分かりやすく示している。学術的に意義のある知見を含んだ結論で述べられている。研究発表会は、時間内に分かりやすいスライド、話し方で発表でき、質問に的確に答えることができる。上記および社会人基礎力で総合的に評価し、特に優れているものをS（秀）、優れている場合をA（優）とする。	卒業論文は、体裁の整った文章であり、研究の目的が明確である。論理的な文章展開で、図表も分かりやすく示している。研究発表会は、時間内に分かりやすいスライド、話し方で発表でき、質問に的確に答えることができる。上記および社会人基礎力で総合的に評価する。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-4	オリエンテーション 研究テーマの決定	ディスカッション Google classroomを介しての資料提示 meetを使用してのディスカッション	これまでの研究背景を理解し、研究内容を理解することができる。 研究テーマを決定することができる。	(予習) 先輩の卒業論文を読み、研究内容を理解する。 (復習) 分からないことは自身でメモを取り、ゼミ時に教員に確認する。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
5-8	論文検索・講読・紹介 研究目的の設定	ディスカッション 発表 Google classroomを介しての資料提示 meetを使用してのディスカッション	研究テーマに沿った論文を検索し、自身で読み込み、ゼミで発表することができる。 論文を参考し、研究の目的を具体的に設定することができる。	(予習) 関連する論文を検索して読み込む。 (復習) 分からない点は書籍で調べたり、教員に質問に行く。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9-12	研究計画の立案・発表 実験の準備・練習	ディスカッション 発表 実験 Google classroomを介しての資料提示 meetを使用してのディスカッション	先行研究や関連する論文から、研究計画を立案し、スケジュールを立てることができる。 研究計画をゼミにて理論的に発表することができる。 実験手順の確認や練習を行うことができる。	(予習) 関連する論文を検索して読み込む。 実験方法や原理を調べておく。 (復習) 分からない点は書籍で調べたり、教員に質問に行く。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
13-16	研究の遂行 予備実験	ディスカッション 発表 実験 Google classroomを介しての資料提示 meetを使用してのディスカッション	研究計画に沿って、研究を進めることができる。 予備実験を行い、研究計画の見直しを行うことができる。 研究の状況をゼミにて理論的に発表し、メンバーと意見交換することができる。	(予習) 研究を進めている途中で生じた疑問点を、書籍等を使用して解決しておく。 (復習) 実験の結果を予測し、不足している手技の練習を重ねる。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
17-20	研究の遂行・中間評価・見直し 本実験	ディスカッション 発表 実験 Google classroomを介しての資料提示 meetを使用してのディスカッション	研究計画に沿って、研究を進めることができる。 予備実験を行い、研究計画の見直しを行うことができる。 研究の状況をゼミにて理論的に発表し、メンバーと意見交換することができる。	(予習) 研究を進めている途中で生じた疑問点を、書籍等を使用して解決しておく。 (復習) 実験の結果を予測し、不足している手技の練習を重ねる。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
21-24	研究発表 論文作成	ディスカッション 発表 Google classroomを介しての資料提示 meetを使用してのディスカッション	分かりやすい資料で研究発表することができる。 質問に答えることができる。 体裁の整った卒業論文を期日までに提出することができる。	(予習) 実験結果を振り返り、必要な資料や文献を収集しておく。 (復習) すべての解析結果より、教員と十分な討論をしたうえで、発表原稿および論文にまとめる。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
25-28	本実験 データ解析	ディスカッション 発表 実験 Google classroomを介しての資料提示 meetを使用してのディスカッション	研究計画に沿って、研究を進めることができる。 得られたデータを分析し、研究の今後の見通しを立てることができる。 研究の状況をゼミにて理論的に発表し、メンバーと意見交換することができる。	(予習) 研究を進めている途中で生じた疑問点を、書籍等を使用して解決しておく。 (復習) 実験の結果を分析し、必要に応じて必要な文献等、検索し、理解を深めておく。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
29-30	データ解析・まとめ 研究発表会の準備	ディスカッション 研究発表準備 Google classroomを介しての資料提示 meetを使用してのディスカッション	研究計画に沿って、研究を進めることができる。 得られたデータを分析し、最終的なまとめを行うことができる。 研究の状況をゼミにて理論的に発表し、メンバーと意見交換することができる。 研究発表会のスライドを分かりやすく作成することができる。	(予習) 研究を進めている途中で生じた疑問点を、書籍等を使用して解決しておく。 (復習) 実験の結果を分析し、必要に応じて必要な文献等、検索し、理解を深めておく。すべての解析結果より、教員と十分な討論をしたうえで、発表原稿および論文にまとめる。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103E	卒業研究(岡田 瑞恵)	岡田瑞恵			4	必修	3,4 年3年後期・4年前期

科目の概要

DP1にあるように、建学の精神、社会人礎力、pisa学力を修得して職場の人々と協働して課題を解決していくことができるよう、さらに、DP3にあるよう自立した社会人として常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができることを目指す。これまでに学習し獲得した専門的な知識や技術を活用し、DP2に記載されているように、人々の健康維持・増進、疾病予防に関する課題解決を目的として、大学生生活の集大成となる卒業研究に取り組む。研究の目的や背景、意義を理解するとともに、課題や問題について整理し、研究計画に従って主体的に研究を推進する。得られた結果を分析、考察し、その成果を研究論文としてまとめて発表する。

学修内容	到達目標
① 研究内容に関連する文献や資料を調べ内容を理解する。 ② 先行研究や調べた内容をもとに、研究の目的や背景、意義を明確にする。 ③ 研究の目的や背景、意義に従い、研究計画を立案する。 ④ 研究計画に従い、主体的に研究を推進する。 ⑤ 得られた研究の成果をまとめ、根拠に基づいて考察し、研究論文の執筆および 研究発表を行う。	① 研究内容に関連するデータ引用および文献や資料について、ICTを活用し検索することができる。 ② 先行研究や調べた内容をもとに、研究の目的を明確にすることができる。 ③ 研究の目的や背景、意義に従い、研究計画を立案することができる。 ④ 研究計画に従い、主体的に研究を進めることができる。 ⑤ 得られた研究の成果をまとめ、考察し、研究論文の執筆および研究発表を行うことができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	研究に向けて必要な情報を得るため、図書館、インターネットの活用により文献や資料を検索し、主体的に行動して研究に取り組むことができる。ICTの活用による情報の共有、課題提出、プレゼンテーション等を行い、周囲とのディスカッションを通して、積極的に研究を進めることができる。
	働きかけ力	教員や研究室のメンバーに対し、自分の課題をオープンにし、助言や協力が得られるように行動できる。
	実行力	立案した研究計画に基づき、自ら研究に取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	得られた結果から課題や問題を見出し、なぜそのような結果になったのかについて、理論的な背景を根拠に基づいて考察することができる。
	計画力	具体的な研究計画を立案することができる。
	創造力	見つけた課題や問題を解明するためにはどのようにしたらよいかを考え、新たに研究計画を修正し、立案することができる。
チームで働く力	発信力	研究発表や研究論文の執筆に向けて準備し、研究内容が伝わるようにまとめて発信することができる。
	傾聴力	教員や研究室のメンバーと積極的にディスカッションを行い、自分の考えを明確に伝えることができる。必要なことは必ずノートを取る。
	柔軟性	得られた実験結果を論文や文献などを参考にして考察し、その後の研究計画や研究内容を柔軟に見直すことができる。
	状況把握力	研究の進捗状況を確認し、不備があれば教員や研究室のメンバーとその後研究の進め方について話し合うことができる。また、メンバーは助け合い、協働して前にすすめることができる。
	規律性	研究室のルールを守り（提出物、報告事項）、教員や研究室のメンバーと協調、協働して研究に取り組むことができる。提出物は期限を守って提出できる。
	ストレスコントロール力	難しい研究に対しても粘り強く取り組み、協働して成果を出すことができる。

テキスト及び参考文献

必要な都度、資料や文献等を提示します。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：これまでに学習した全ての科目が関連する。
 資格との関連：栄養士・管理栄養士

学修上の助言	受講生とのルール
研究は先行研究と全く同じではなく、必ず自分だけの明らかにしようとする something new を探して下さい。テーマがある程度決定されてからも、文献、資料からの学びを基に、どのような方法を選択すると自分の仮説を証明できるかを模索し、自ら考えましょう。また文献をよく読み、論文の構成を掴みましょう。単に実験をするだけではなく、研究が主体的にマネジメントできるように学んでいきましょう。自分で考え、工夫し、主体的に研究の道筋を組み立てていくように心がけましょう。	・卒業研究は自分の研究です。よって、依存的ではなく、主体的に取り組む姿勢が重要です。教員や研究室のメンバーと積極的に議論し、協力しながら研究を推進していきましょう。そのためには、得られた知識の提示とともに、自らの考えを提示し、また、得られたデータ整理等を行い、議論に必要な準備をして積極的に参加しましょう。 ・google クラスルームを通じて、資料の配付を行い、また、Meetによるディスカッション等を行う場合もある。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表および、卒業論文を評価する。 卒業論文到達までの過程における以下の①～⑥の項目を含む。 ①自己のテーマを決定することができる。 ②研究目的の設定にあたり、根拠を示しながら説明できる。 ③自己のテーマに沿った論文検索ができる。 ④データを整理し図表化でき、そこから何が読み出せるか分析できる。 ⑤データから、根拠を示しながら考察ができる。 ⑥発表、論文の構築ができる。 		
			②			
			③			
			④			
			⑤			
	平常評価	小テスト	0	①	<ul style="list-style-type: none"> 研究論文について、以下の観点で評価する。 ・研究論文の作成要領に従い、論文としての体裁を整えて作成している。 ・研究目的や背景、意義が明確に記述されている。 ・研究方法が、研究を再現することができるように的確に記述されている。 ・研究に対する考察が根拠に基づき考えられている。 ・研究の結論が、分かり易く記述されている。 ・文章は論理的で明快な表現を用いて記述されている。 ・図表は分かり易く適切に示されている。 知識の獲得(10%)：学修内容から知識を獲得できる。 知識の応用(25%)：学修内容を活用し、応用問題について答えることができる。 課題解決(25%)：現状の問題について考え、解決策を導き出すことができる。 	
				②		
				③		
				④		
				⑤		
		レポート	60	①		<ul style="list-style-type: none"> 研究発表について、以下の観点で評価する。 ・研究の目的や背景、意義および研究の方法、結果など内容についてよく理解している。 ・研究に対する考察を、根拠を明らかにして主張することができる。 ・研究の内容を聴衆に向けて分かり易く伝えることができる。 ・発表の媒体が分かり易く適切である。 ・質問に対して的確に回答することができる。 知識の応用(10%)：これまでの学修内容を活用し、原理や根拠を探し出すことができる。 課題解決(20%)：4年間の学修の総括として、導き出した結果を根拠と照らし併せ、結論づけることができる。
				②		
				③		
				④		
				⑤		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	30	①	<ul style="list-style-type: none"> (主体性) 自ら進んで論文や参考文献を調べ、必要な情報を収集しながら主体的に研究に取り組むことができる。 (実行力) 立案した研究計画に基づいて主体的に研究を推進することができる。 (課題発見力) 得られた結果から課題や問題を見つけ出す。 (創造力) 発見した課題や問題に対する解決策を考える。 (発信力) 研究論文の紹介、研究成果の発表に向けて準備し、発表することができる。 (傾聴力) 発表者の話をよく聞いて内容を理解する。意見や質問がある場合は積極的に発言する。必要なことは必ずノートを取る。 (規律性) 時間や提出物の期限を守る。 			
		②				
		③				
		④				
		⑤				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	<ul style="list-style-type: none"> (主体性) 自ら進んで論文や参考文献を調べ、必要な情報を収集しながら主体的に研究に取り組むことができる。 (実行力) 立案した研究計画に基づいて主体的に研究を推進することができる。 (課題発見力) 得られた結果から課題や問題を見つけ出す。 (創造力) 発見した課題や問題に対する解決策を考える。 (発信力) 研究論文の紹介、研究成果の発表に向けて準備し、発表することができる。 (傾聴力) 発表者の話をよく聞いて内容を理解する。意見や質問がある場合は積極的に発言する。必要なことは必ずノートを取る。 (規律性) 時間や提出物の期限を守る。 		
			②			
			③			
			④			
			⑤			
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>主体的に研究に取り組むことができる。研究論文および研究発表において、研究の目的や背景、意義が明確に記述されている。研究方法が研究を再現できるように的確に記述されている。研究結果が図表を用いて効果的かつ明確に表現されている。根拠を明示して考察され、結論に矛盾がない。研究の内容が追実験する人にも分かるように詳細に記述されている。研究を推進するにあたり、自ら率先して情報を集めて立案し、積極的に実験するなど主体的に研究に取り組むことができる。研究発表では、聴衆に分かり易く効果的な媒体および発表内容で伝えることができる。</p> <p>上記の基準を総合的に評価し、S：特に優れているもの、A：優れているものとする。</p>	<p>B：主体的に研究に取り組むことができる。研究論文および研究発表において、研究の目的や背景、意義が記述されている。研究方法是誰もが追実験できるよう、詳細に書かれている。研究結果が図表を用いて効果的に表現されている。考察がなされている。</p> <p>C：主体的に研究に取り組むことができる。内容が分かり易く記述されている。研究発表では、分かり易い発表内容で伝えることができる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-3	オリエンテーション 研究の進め方、文献検索の方法、研究テーマの検討	説明 質疑 討論 ICTの利用 (googleクラスルームを通じて、資料の配付、提出物、Meetによるディスカッション等を行う)	説明した研究の概要が理解できる。 研究の目的や背景、意義を理解し、研究テーマが決定できる。	(予習) 研究内容に関連する論文や参考文献を読み、理解を深める。 (復習) 研究の概要をノートにまとめる。	540	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4-8	論文検索および参考文献の収集 論文や参考文献の講読	演習 質疑 討論 ICTの利用 (googleクラスルームを通じて、資料の配付、提出物、Meetによるディスカッション等を行う)	研究のために必要となる論文を検索して収集することができる。 論文や参考文献など、調べた内容を分かり易くまとめ、発表することができる。	(予習) 論文の検索方法を習得する。論文を読んで不明な点を調べて発表の準備を行う。 (復習) 疑問点を調べ、内容をノートにまとめる。	900	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
9-12	研究計画の立案 研究手法の習得	演習 質疑 討論 実験	検索した論文や文献を参考に研究計画を立てることができる。 研究手法を理解し、実践的に実験の操作方法等を身に付ける。	(予習) 論文や参考文献をよく読み、内容を理解する。 (復習) 実験の操作を何度も繰り返すことで習得する。	720	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13-24	研究計画に基づいた研究の推進	演習 質疑 討論 ICTの利用 (googleクラスルームを通じて、資料の配付、提出物、Meetによるディスカッション等を行う) 実験	研究計画に基づいて実験を行い、研究を推進することができる。 定期的に研究の成果をまとめ、途中経過を発表・報告することができる。	(予習) 研究計画を理解し、準備を行う。 (復習) 新たに発生した課題や問題を明確にして解決策を考え、研究計画を修正する等の対応を行う。	216	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
25-28	研究発表要旨の作成 研究論文の作成	演習 質疑 討論 ICTの利用 (googleクラスルームを通じて、資料の配付、提出物、Meetによるディスカッション等を行う)	研究論文の作成要領に従い、研究の成果を取りまとめることができる。	(予習) 研究論文の作成に向け、必要となる論文や参考文献、資料などを調べて内容を理解する。 (復習) 研究成果を取りまとめ、研究論文の総仕上げを行う。	720	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
29-30	研究発表媒体の作成 研究発表の練習	演習 質疑 討論 プレゼンテーション	研究発表の形式に従い、発表の媒体を作成し発表することができる。	(予習) 研究発表に向け、必要となる論文や参考文献、資料などを調べ内容を理解する。 (復習) 研究発表に向けて指摘を受けた部分を修正し、発表練習を繰り返す。	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103F	卒業研究(田中優成) Graduation research	田中優成		専門	4	必修	3後期・4前期3年後期・4年前期

科目の概要

管理栄養士のディプロマポリシーDP1に基づき、建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を習得して職場と地域の人々と協働で解決するためのテーマ選び、DP2の必要な疾病予防、食育に関する専門知識・技能を活用し、DP3にある社会に貢献できる研究をめざし、学修の集大成として卒業研究を行う。これまで修得した基礎・専門知識を基にフィールドを選択し、研究計画を立て、それぞれの研究テーマに従ってデータを集め、分析をする。研究データをまとめ、科学的に解析し、多角的な視点で考察を行い、論文としてまとめる。

学修内容	到達目標
① 研究テーマの設定をし、研究デザインの作成を学ぶ ② データを収集する方法を学ぶ ③ 研究データを統計処理等により解析する方法を学ぶ ④ 卒業研究の発表に向けてわかりやすくスライドの作成方法、プレゼンテーションスキルを学ぶ ⑤ 研究データ、解析、参考文献をもとに、卒業論文の作成方法を学ぶ	① 研究テーマの設定をし、明確な研究デザインが作成できる ② 必要な調査を理解し、データの収集を行うことができる ③ 得られたデータを適切な統計処理方法にて解析することができる ④ 卒業研究発表会で、得られた結果をわかりやすくプレゼンテーションできる ⑤ 卒業論文を、論理的かつ簡潔に記述し、卒業論文が完成できる

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	研究を進めるために、P（計画）D（実行）C（チェック）A（評価）を自ら実践する
	働きかけ力	自ら自分の研究フィールドを見つけることができる
	実行力	立案した研究計画に沿って、調査・実験・試作を実行する
考え抜く力	課題発見力	得られたデータを適切に解析し、課題を発見する
	計画力	研究課題の計画を立案できる
	創造力	既存の理論や得られた結果から、新たな発想、アイデアを考える
チームで働く力	発信力	研究の進捗や自らの考え・アイデアを仲間や教員へ、報告・連絡・相談する
	傾聴力	仲間や教員の意見を聞き取り、聞き取った内容と自分の理解をすり合わせる
	柔軟性	常に柔軟な姿勢で前向きに次の策を考え取り組むことができる
	状況把握力	常にチームの状況を把握し、チームで取り組む姿勢で行える
	規律性	決められたルールについて、設定の意味を理解した上で守る
	ストレスコントロール力	ポジティブに物事を考えることができる

テキスト及び参考文献

研究テーマ毎に必要なに応じて、テキスト・文献などを指示する

他科目との関連、資格との関連

【他科目との関連】
これまで履修したすべての科目
【資格との関連】
栄養士 管理栄養士 栄養教諭

学修上の助言	受講生とのルール
何のために行う研究なのかをしっかりと整理した上で、自分に何ができるかを主体的に考え、仲間の声も聴きながら4年間の修学の集大成として、研究論文を作り上げましょう。 そして、自分が明らかにしたことによって世の中がちょっと良くなることの喜びを一緒に噛み締めましょう。	研究室は、一つの組織です。その一員であることを自覚し、活動に際しては、決められた約束・予定を守りましょう。 また、報告・連絡・相談は迅速に同研究室間、教員間で必ず行うようにしましょう。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
			⑤				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
		レポート	50	①		✓	【評価基準】 ・論文として必要最低限の体裁が整っている ・研究の目的と結論が明確に述べられている ・研究の背景や意義、方法や考察が的確に記述されている ・文章は論理的かつ明快でわかりやすい ・図表類はわかりやすく適切に作成されている 等を基に卒業論文の最終稿を総合的に評価する
				②		✓	
				③		✓	
				④		✓	
				⑤		✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	40	①	✓	【評価基準】 ・研究の内容をよく理解している ・発表力がある（態度、声の大きさ、話すスピード、質疑応答など） ・発表の媒体はわかりやすく適切である ・発表要旨はよくまとめている ・質問に対して的確に受け答えをすることができる 等を基に卒業研究発表会でのプレゼンテーションを総合的に評価する			
		②	✓				
		③	✓				
		④	✓				
		⑤	✓				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性）研究をすすめるために、P（計画）D（実行）C（チェック）A（評価）を自ら実践することができる （実行力）立案した研究計画に沿って、調査・実験・試作を実行することができる （課題発見力）得られたデータを適切に解析し、課題を発見することができる （創造力）既存の理論や得られた結果から、新たな発想、アイデアを考える （発信力）研究の進捗や自らの考え・アイデアを仲間や教員へ、報告・連絡・相談することができる （傾聴力）仲間や教員の意見を聞き取り、聞き取った内容と自分の理解をすり合わせる ことができる （規律性）決められたルールについて、設定の意味を理解した上で守ることができる		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S (秀)</p> <p>卒業論文は、研究の背景や意義、方法や考察が的確に記述され、目的と結論も明確に述べられ、文章がわかりやすく、一連の流れもわかりやすく、図表類も適切に作成されている。発表は、研究内容をよく理解し、発表力に優れ、媒体もわかりやすく、質問に対して的確に受け答えができている。</p> <p>A (優)</p> <p>卒業論文は、研究の目的と結論が明確に述べられ、文章がわかりやすく、図表類も適切に作成されている。発表は、研究内容をよく理解し、発表力に優れ、媒体もわかりやすく適切である。</p>	<p>B (良)</p> <p>卒業論文は、文章がわかりやすく書かれており、図表類も適切に作成されている。発表は、研究内容をよく理解し、わかりやすく発表ができている。</p> <p>C (可)</p> <p>卒業論文は、誤字脱字がなく図表類も適切に作成されている。発表は、研究内容をわかりやすく発表ができている。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-2	「オリエンテーション」 研究テーマの検討を行うとともに自身のテーマを決定する	討議 質疑 Google Classroom	研究テーマの概要を理解できる	予習：どのような研究テーマにしたいかを考えておく 復習：テーマの概要を研究ノートに記載する	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3-5	「論文読み合わせ」 論文の検索方法を学び、論文について討議を行う	インターネット 論文閲読 討議	研究テーマに関連した論文を検索でき、内容を理解できる	予習：自分で興味のある論文を検索し、閲読する 復習：閲読した内容を研究ノートに記載する	360	働きかけ力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
6-7	「研究デザインの作成」 決定した研究テーマを基にデータの収集方法や解析の方法を検討する	討議 インターネット Google Classroom	研究デザインを自ら作成することができる	予習：自分で論文を検索しておく 復習：研究目的・方法について自分の意見をまとめておく。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
8-15	「本調査・まとめ」 実際にデータを収集し、適切な形としてまとめるとともに研究内容の見直しを行う	グループワーク データ解析 インターネット Google Classroom	研究の進め方・方向性を見直し、説明できる	予習：これまでの研究の結果と問題点について、自分の意見をまとめておく 復習：見直した内容を研究ノートに書く	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
16-20	「データまとめ」 統計学的処理を含めた分析及びデータを評価する	データ分析 インターネット Google Classroom	論文に必要な内容の分析を行うことができる	予習：統計の方法を復習しておく 復習：分析し、課題を見つける	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 柔軟性 規律性 ストレスコントロール力
21-22	「中間報告会」 今までに得られたデータを基に中間報告を行い、論文を仕上げるために必要なことを検討する	グループワーク 討議 データ分析 インターネット Google Classroom	要旨を作成し、研究の総括をプレゼンテーションできる	予習：これまでに得た研究の結果と問題点について、自分の意見を発表できる形としておく 復習：発表することによって浮かび上がった内容を研究ノートにまとめる	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
23-25	「論文作成」 論文の書き方を学び、これまでにまとめてきた研究ノートの内容を論文の形にする	グループワーク 討議 データ分析 インターネット Google Classroom	論文を決められた体裁でまとめ、提出できる	予習：これまでの研究ノートに書いた内容をよく理解しておく 復習：作成した発表要旨をよく見直し、完成させる	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力
26-28	「研究論文発表の準備」 まとめてきた内容を基にプレゼンテーション資料を作成するとともに発表の練習を行う	討議 Google Classroom	発表要旨を決められた体裁で作成できる	予習：研究内容をよく理解しておく 復習：発表練習を繰り返し行っておく	360	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
29	「研究論文発表会」作成したプレゼンテーション資料を用いて発表する	プレゼンテーション Google Classroom	作成した発表ツールを使って、発表できる	予習：発表練習を繰り返し行っておく 復習：論文完成に向けて、得られた知見をまとめておく	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
30	「論文完成」研究論文発表会によって報告した内容を踏まえ、また、意見・質問の内容を踏まえて論文を完成させる	討議 質疑 Google Classroom	期日までに体裁の整った卒業論文を提出できる	予習：これまでの報告会の内容をまとめておく	90	主体性 実行力 課題発見力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103G	卒業研究(上島寛之)	上島寛之			4	必修	3・43年後期・4年前期
科目の概要							
<p>本科目では、DP1・2・3に記載があるように、自立した社会人として常に自己研鑽に取り組み、疾病・疾病予防・食育に関する専門知識・技能を身に付け、豊かな食生活と健康を創造することで社会に貢献することができ、建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して課題を解決していくことができる管理栄養士の育成を目指す。</p> <p>具体的には、4年間の学びの集大成として各自のテーマに沿った研究を行うために、論理的な文章で研究論文をまとめ、得られた事実を分かりやすく伝えられる力を身につける。</p>							
学修内容				到達目標			
① 食と健康に関係した研究テーマを見つけ出す。 ② 研究テーマに沿って、資料を収集し、研究計画を立てる。 ③ 研究計画に従い、データの収集、分析を行う。 ④ 自身の研究内容を論文にまとめる。 ⑤ 自身の研究を口頭で発表し質疑に応答する。				① 食と健康に関係した研究テーマを見つけ出す(知識を獲得することができる)ことができる。 ② 研究テーマに沿って、資料の収集、研究計画を立てる(知識を活用することができる)ことができる。 ③ 研究計画に従い、データの収集、分析(知識を活用する)ができる。 ④ 自身の研究内容を論理的にまとめる(知識を活用する)ことができる。 ⑤ 自身の研究を口頭で発表し質疑に適切に対応(解決)できる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	research questionを自ら見つけることができる。					
	働きかけ力						
	実行力	立案した研究計画を遂行できる。					
考え抜く力	課題発見力	得られた結果から問題解決の糸口を見出すことができる。					
	計画力						
	創造力	research questionに対応した仮説と研究計画を立てることができる。					
チームで働く力	発信力	研究成果を相手にわかりやすく伝えることができる。					
	傾聴力	教員や研究室のメンバーとディスカッションを行い、自身の研究に役立てることができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	ルール設定の意味を考え、適切に設定する。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
研究テーマに応じて、必要な書籍や文献、資料を紹介する。							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：これまで学修したすべての科目が関連する。 資格との関連：栄養士、管理栄養士、栄養教諭							
学修上の助言				受講生とのルール			
公衆栄養・栄養疫学は実学である。立案した研究の成果が、日々の生活の中においてどのように役立つかを考えながら取り組んでほしい。				活動には自ら積極的に取り組むこと。 期日のあるものは計画を立てて余裕をもった行動を心掛けること。 研究室内のメンバーと協力しながら研究を進めること。 研究室のルールや約束は守ること。			

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
			⑤				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
		レポート	60	①		✓	卒業論文は以下の観点で評価する。 ・論文の作成要領に従い、わかりやすく作成されているか。 ・研究の背景や目的、意義が明記されているか。 ・方法や図表をはじめとした結果はわかりやすく示されているか。 ・考察・結論は先行研究を踏まえて科学的に論じられているか。 ・社会的あるいは学術的に意義のある知見を含んでいるか。 獲得活用解決の評価割合は以下の通りとする。 知識の獲得(研究・論文執筆の知識)：30% 知識の活用(データ収集・分析(活用)ができる)：30% 知識の解決(解析結果から課題を抽出(解決)できる)：40%
				②		✓	
				③		✓	
				④		✓	
				⑤		✓	
成果発表(プレゼンテーション・作品制作等)	30	①	✓	研究発表会および質問応答は以下の観点で評価する。 ・スライドはわかりやすく構成されているか。 ・話し方は聞き取りやすいか。 ・時間内に適切に発表ができていないか。 ・研究内容を理解し、質疑に自分の言葉で応答ができていないか。 獲得活用解決の評価割合は以下の通りとする。 知識の獲得(研究・論文執筆の知識)：10% 知識の活用(データ収集・分析(活用)ができる)：10% 知識の解決(解析結果から課題を抽出(解決)できる)：80%			
		②	✓				
		③	✓				
		④	✓				
		⑤	✓				
学修行動	社会人基礎力(学修態度)	10	①	✓	【主体性】 research questionを自ら見つけることができる。 【実行力】 立案した研究計画を遂行できる。 【課題発見力】 得られた結果から問題解決の糸口を見出すことができる。 【創造力】 research questionに対応した仮説と研究計画を立てることができる。 【発信力】 研究成果を相手にわかりやすく伝えることができる。 【傾聴力】 教員や研究室のメンバーとディスカッションを行い、自身の研究に役立てることができる。 【規律性】 ルール設定の意味を考え、適切に設定する。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
卒業論文は、研究結果を科学的に結論付け、自らの言葉で、体裁の整った文章としてまとめている。研究発表会では、自らの研究内容を、専門外の聴衆にも理解できるよう、分かりやすくまとめ報告ができる。また、質疑に対する的確に回答できる。上記におよび社会人基礎力を総合的に評価し、特に優れているものをS(秀)、優れているものをA(優)とする。	卒業論文は、体裁の整った文章であり、研究の目的が明確である。論理的な文章展開で、図表も分かりやすく示している。研究発表会は、時間内に分かりやすいスライド、話し方で発表でき、質問に的確に答えることができる。上記および社会人基礎力で総合的に評価する。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-4	オリエンテーション 研究テーマの決定	ディスカッション (google meet) グループワーク (google meet)	研究テーマ決定のための資料を収集することができる。 研究テーマを決定することができる。	(予習) インターネットによる文献検索をする。 (復習) 文献を読み込む。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
5-8	文献検索・紹介 研究計画の概要の決定	ディスカッション (google meet) グループワーク (google meet)	研究テーマに関連する先行研究を収集し、理解できる。 上記をまとめ、ゼミで発表できる。 研究方法を決定できる。	(予習) インターネットによる文献検索をする。 (復習) 文献を読み込む。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9-12	サンプルデータを用いた統計演習	ディスカッション (google meet) グループワーク (google meet)	EZRを用いて検定に取り組むことができる。	(予習) EZRをダウンロードしてくる。 (復習) 分からない点は書籍で調べたり、教員に質問に行く。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
13-16	研究計画の作成	ディスカッション (google meet) グループワーク (google meet)	具体的な研究方法を決め、スケジュールを立案できる。 研究計画をゼミで発表し、討論できる。	(予習) インターネットによる文献検索をする。 (復習) 文献を読み込む。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
17-20	調査票の作成 研究計画の作成	ディスカッション (google meet) グループワーク (google meet)	目的とする対象に見合った調査方法を選定することができる。	(予習) インターネットによる文献検索をする。 (復習) 文献を読み込む。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
21-24	調査の準備および遂行	ディスカッション (google meet) 調査(google forms)	調査するために必要な資料等をそろえることができる。 調査をして気づいたことなどをまとめることができる。	(予習) 打ち合わせ資料等を作成する。 (復習) データ入力に必要なシートを作成する。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
25-28	データ入力および解析	ディスカッション (google meet) グループワーク (google meet)	情報リテラシーをもって、適切にデータ入力ができる。	(予習) 適切な解析方法と個人情報について確認する。 (復習) 結果についての疑問点を文献検索し、解決する。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
29-30	研究発表 論文執筆	ディスカッション (google meet) プレゼンテーション (google meet)	研究内容を明確に聴衆に伝えられる卒業研究発表ができる。 研究目標に沿った卒業論文を作成、提出できる。	(予習) 文献を検索し、自らの研究や関連する事柄について理解を深める。 発表練習をする。 (復習) 卒業論文を磨き上げる。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103H	卒業研究(澤入駿哉)	澤入駿哉			4	必修	33年後期・4年前期

科目の概要

卒業研究ではDP 1・2・3に記載している建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を修得して、職場と地域との人々と共同して課題を解決でき、専門知識・技能を身につけ、常に自己研鑽に取り組むことができる管理栄養士の育成を目指す。3年生までで修得した知識・技術を活用し、研究を進める上で主体性を発揮して自ら必要な情報を書籍やインターネット上から収集し、答えの分からないものに対してどのようにアプローチしていくかを学ぶ。また、データなどの処理方法を修得し、卒業論文を執筆する。

学修内容	到達目標
① 卒業論文のテーマを設定する。 ② テーマの情報収集をする。 ③ 実験の方法を模索し、実施する。 ④ 卒業研究の発表をする。 ⑤ 卒業論文を作成する。	① 設定したテーマの情報を収集できる。 ② 研究方法の原理を理解できる。 ③ 研究に対して責任をもって行える。 ④ 卒業研究発表会で分かりやすいプレゼンテーションができる。 ⑤ 論理的に卒業論文を書き上げることができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	自ら卒業研究の計画を立て、責任を持って実験を行う。
	働きかけ力	
	実行力	あらかじめ立てた計画に基づいて実験を確実に行う。
考え抜く力	課題発見力	得られたデータを解析し、課題を発見する。
	計画力	
	創造力	収集した情報から自分の研究に応用できそうなことを考える。
チームで働く力	発信力	研究室内で学生同士で率先して情報交換を行う。
	傾聴力	教員からの意見を聞き、理解を深める。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	研究室内のルールを厳守する。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テーマにより資料、文献を提示する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：これまで履修したすべての科目
 資格との関連：栄養士、管理栄養士、栄養教諭

学修上の助言	受講生とのルール
結果が分からないものへ挑戦するのは大変ですが、未知のものへ挑戦することの楽しさを経験してください。そして努力した証を卒業論文という形で残し、今後の自信へと繋げましょう。	研究室のルールは厳守すること。報告、連絡、相談を欠かさずに行い、研究室の輪を乱すことなく全員が気持ちよく実験できるように努めること。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト		0	①			
					②			
					③			
					④			
					⑤			
		レポート		45	①		✓	卒業論文を下記の点で評価する。 ・論文として必要最低限の体裁が整っているか。 ・研究の目的と結論が明確に述べられているか。 ・研究の背景や意義、方法や考察が的確に記述されているか。 ・文章は論理的かつ明快で分かりやすいか。 ・図表は分かりやすく適切に作成されているか。 ・知識の獲得（研究の背景を理解している）：30% ・知識の活用（目的に対して適切な実験方法を立案できる）：30% ・知識の解決（得られた研究結果から考察ができる）：40%
					②		✓	
					③		✓	
					④		✓	
					⑤		✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		45	①	✓	卒業研究発表会でのプレゼンテーションを下記の点で評価する。 ・研究の内容をよく理解しているか。 ・発表力があるか。 ・発表の媒体はわかりやすく適切か。 ・発表要旨はよくまとめているか。 ・質問に対して的確に受け答えをすることができたか。			
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性） ・自ら卒業研究の計画を立て、責任を持って実験を行う。 （実行力） ・あらかじめ立てた計画に基づいて実験を確実に進行。 （課題発見力） ・得られたデータを解析し、課題を発見する。 （創造力） ・収集した情報から自分の研究に応用できそうなことを考える。 （発信力） ・研究室内で学生同士で率先して情報交換を行う。 （傾聴力） ・教員からの意見を聞き、理解を深める。 （規律性） ・研究室内のルールを厳守する。			
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S(秀)：卒業論文は体裁が整っており、背景、目的、方法、結果、考察が論理的かつ簡素な優れた論文を書くことができる。卒業研究発表では、研究成果及び考察を分かりやすく伝えることができ、質問にも的確に答えることができる。</p> <p>A(優)：卒業論文は上記項目に対し、論理的にまとめ、卒業研究発表では質問に的確に答えることができる。</p>	<p>卒業論文は背景、目的、方法、結果、考察が論理的に書かれ、卒業研究発表では質問の受け答えができる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-4	オリエンテーション 研究テーマの紹介	説明 質疑 資料の配布：Google Classroom	説明したないようを理解できる。	(予習) 配布資料や文献などを読む。 (復習) インターネットや図書館などで文献を調べる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5-8	実験 論文検索	実験 ディスカッション ディスカッションの評価・フィードバック 資料の配布：Google Classroom	自分の研究テーマを理解し、自ら文献を探し理解を深めることができる。	(予習) 配布資料や文献などを読む。 (復習) インターネットや図書館などで文献を調べる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
9-12	実験 論文検索	実験 ディスカッション 資料の配布：Google Classroom	目的に沿って適切な実験を行う。	(予習) 配布資料や文献などを読む。 (復習) インターネットや図書館などで文献を調べる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13-16	実験 スライド作成	実験 ディスカッション 資料の配布：Google Classroom	目的に沿って適切な実験を行う。	(予習) 配布資料や文献などを読む。 (復習) インターネットや図書館などで文献を調べる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
17-20	実験 ゼミ内発表	実験 プレゼンテーション ディスカッション 発表内容のフィードバック	目的に沿って適切な実験を行う。 行った実験をまとめ、ゼミ内で発表する。	(予習) 配布資料や文献などを読む。 (復習) インターネットや図書館などで文献を調べる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21-24	実験 論文検索	実験 ディスカッション 資料の配布：Google Classroom	目的に沿って適切な実験を行う。	(予習) 配布資料や文献などを読む。 (復習) インターネットや図書館などで文献を調べる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
25-27	実験 論文作成 発表要旨作成	データの解析 論文作成 資料の配布：Google Classroom	実験の結果をまとめられる。	(予習) 配布資料や文献などを読む。 (復習) インターネットや図書館などで文献を調べる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
28-29	発表資料作成 発表練習 論文作成	発表練習 論文作成 資料の配布：Google Classroom	発表資料を完成する。	(予習) 配布資料や文献などを読む。 (復習) インターネットや図書館などで文献を調べる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
30	研究発表 論文作成	発表 論文作成 論文に対するフィード バック 資料の配布：Google Classroom	研究の背景、目的、方 法、結果、考察を分か りやすくまとめ発表す る	(予習) 発表練習を入念に行 う。 (復習) 論文をまとめる。	360	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103I	卒業研究(平井あかり) Graduation research	平井あかり			4	必修	3・43年後期・4年前期
科目の概要							
<p>DP1-5の目標を達成させる集大成となる科目である。 この科目では、これまでの学修の集大成として、各自のテーマに沿った研究を行う。論理的な文章で研究論文をまとめ、得られた事実を分かりやすく伝えられる力を身につける。</p>							
学修内容				到達目標			
① 研究テーマを決め、研究目的を明らかにする。 ② 研究テーマに沿って研究計画を立てる。 ③ 研究テーマに沿った資料、情報を収集し、研究・データの分析を行う。 ④ 研究によって得られた結果を論文にまとめる。 ⑤ 研究を口頭で発表し質疑に応答する。				① 研究テーマを決め、研究目的を明らかにすることができる。 ② 研究テーマに沿った研究計画を立てることができる。 ③ 研究計画に沿った資料、情報を収集し、研究・データの分析ができる。 ④ 研究によって得られた結果を論文にまとめることができる。 ⑤ 研究を口頭発表し質疑に応答することができる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	自ら疑問を持ち、行動を起こす。					
	働きかけ力						
	実行力	研究計画に沿って研究を遂行する。					
考え抜く力	課題発見力	得られた結果に対してさまざまな視点から関心や疑問を持ち、科学的根拠で見極められる。					
	計画力						
	創造力	研究テーマに対して、多角的に分析する。					
チームで働く力	発信力	研究成果を相手にわかりやすく伝える。					
	傾聴力	教員や研究室メンバーからの意見を正確に理解し、自身の研究に役立てる。					
	柔軟性						
	情況把握力						
	規律性	研究室のルールを守る。期日に提出物を提出する。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
<p>テキスト：使用しない 研究テーマに応じて、必要な書籍や文献、資料を紹介する。 参考資料：レポートの書き方ガイド https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/useful/pdf/report/20170426_kiso.pdf 関西大学（基礎編） https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/useful/pdf/report/20170426_hatten.pdf 関西大学（発展編）</p>							
他科目との関連、資格との関連							
<p>全ての履修科目と関連する。 資格との関連：管理栄養士、栄養士、栄養教諭</p>							
学修上の助言				受講生とのルール			
4年間の集大成として研究を行う。将来の管理栄養士として、常に新しい情報に耳を傾け、疑問を持ち続けて努力してほしい。				ゼミへの出席と進捗状況の報告を必須とする。 期日があるものは計画を立てて確実に実行する。 研究室内のメンバーと協力しながら研究を進める。 研究室のルールや約束を守る。 資料の配布や連絡には、Google classroomを使用する。 必要に応じて、Google Meetを使用する。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		60	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		30	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
卒業論文は、研究の目的が明確で、科学的根拠に基づき論理的な文章で、図表も分かりやすく明確に提示できている。研究発表会は、スライド、分かりやすい発表、質疑応答に答えることができる。上記および社会人基礎力で総合的に評価し、特に優れているものをS（秀）、優れている場合をA（優）とする。	卒業論文は、研究の目的が明確で、科学的根拠に基づき論理的な文章で、図表も分かりやすく提示できている。研究発表会は、スライド、分かりやすい発表、質疑応答に答えることができる。上記および社会人基礎力で総合的に評価する。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-4	オリエンテーション 研究テーマの決定	討論 質疑	研究テーマ決定のための資料を収集し、内容を理解することができる。研究テーマを決定することができる。	(予習) 関連する論文を図書館等で検索することができる。(復習) 論文の知識や理解を深め、わからないキーワードは調べてまとめることができる。	720	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5-8	論文検索 論文講読 研究目的の設定	討論 質疑 発表	研究テーマに関連論文を検索し、ゼミで発表することができる。研究の目的・方法を説明することができる。	(予習) 関連する論文を図書館等で検索することができる。(復習) 論文の知識や理解を深め、わからないキーワードは調べてまとめることができる。	720	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
9-12	研究計画の立案・作成 調査の準備・練習	討論 発表 調査	関連論文から、研究計画を立案し、スケジュールを立てることができる。研究計画をゼミで発表することができる。調査手順の確認ができる。	(予習) 予備調査の研究計画をゼミで発表することができる。(復習) 発表後に出た意見をまとめ、予備調査の見直しとまとめができる。	720	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13-16	予備調査 研究の実施	討論 発表 調査、実習	研計画に沿って、予備調査と研究を実施することができる。予備調査結果から、疑問点を抽出し、研究計画の見直しができる。	(予習) 研究上生じた疑問点は、関連する論文を図書館等で検索し、課題を解決することができる。(復習) 論文知識や理解を深め、わからないキーワードは調べてまとめることができる。	720	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
17-20	データ分析 中間発表評価 研究の遂行	討論 発表 調査	研究計画に沿って、研究を実施することができる。ゼミ内で結果の進捗状況を中間発表し、意見交換できる。	(予習) 研究上生じた疑問点は、関連する論文を図書館等で検索し、課題を解決することができる。(復習) 論文知識や理解を深め、わからないキーワードは調べてまとめることができる。	720	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21-24	研究の遂行	討論 発表 調査、実習	研究計画に沿って、研究を実施することができる。ゼミ内で結果の進捗状況について、意見交換できる。	(予習) 研究上生じた疑問点は、関連する論文を図書館等で検索し、課題を解決することができる。(復習) 論文知識や理解を深め、わからないキーワードは調べてまとめることができる。	720	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
25-28	データ解析・まとめ 研究発表会の準備	討論 発表 準備	データを解析し、結果をまとめることができる。研究の状況を、ゼミ内で理論的に意見交換をすることができる。発表要旨、原稿、スライドを分かりやすく作成することができる。	(予習) 研究上生じた疑問点は、関連する論文を図書館等で検索し、課題を解決することができる。(復習) 論文知識や理解を深め、わからないキーワードは調べてまとめることができる。	720	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
29-30	研究発表 論文作成	討論 発表	誰もが分かりやすい資料を作成し、研究発表することができる。体裁の整った卒業論文を期日までに提出することができる。	(予習) 研究上生じた疑問点は、関連する論文を図書館等で検索し、課題を解決することができる。(復習) 論文知識や理解を深め、わからないキーワードは調べてまとめることができる。	720	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103J	卒業研究(服部悟)	服部悟		専門	4	必修	3・43年後期・4年前期

科目の概要

DP1～3にあるように管理栄養士の主な業務の一つとして傷病者に対する栄養の指導がある。その為にはバイタルサインや体重などの生理的パラメータの変動を読み取る能力が必要とされる。卒業研究の課題として、早朝起床時の1)体重、2)体温、3)心拍数、4)血圧を少なくとも6ヶ月間測定する。また、各自、1)～4)あるいは、血糖値など特定の検査のいずれかについて、1日24時間での変動を測定し、日常活動との関連を掘り下げる。その成果を研究発表会および卒業論文として発表する。

学修内容	到達目標
① 1つのパラメータについて、研究仮説を立てる。 ② 研究仮説に従って研究計画を立てる。 ③ データを収集して分析を行う。 ④ 研究結果を論文にまとめ、口頭発表を行う。	① 研究仮説を立てることができる。 ② 研究仮説に従って研究計画を立てることができる。 ③ データを収集して分析を行うことができる。 ④ 研究結果を論文にまとめ、口頭発表を行うことができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	研究テーマ、研究計画につき、自ら資料を収集し立案できる。
	働きかけ力	
	実行力	立案した研究計画をやり遂げる。
考え抜く力	課題発見力	得られたデータを科学的に評価できる。
	計画力	
	創造力	設定した研究仮説に対して、適切な研究計画を立てられる。
チームで働く力	発信力	研究成果を、口頭発表と論文で正確に発表できる。
	傾聴力	教員や他者からの意見を正確に理解し、自分の意見を述べることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	無断欠席、遅刻をしない。ルールを守った行動ができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：使用しない。
参考文献：各自の研究内容に応じて参考・引用文献を紹介する。

他科目との関連、資格との関連

全ての履修科目と関連する。
資格：栄養士、管理栄養士、栄養教諭

学修上の助言	受講生とのルール
① 研究に対し謙虚に向き合う姿勢を持つこと。 ② 日々の計測を怠らないこと。 ③ 思いがけない結果が出たときには、自分の意見を纏めてから、教員に相談すること。	① データの捏造や改竄は決して行ってはならない。 ② 毎週のゼミに出席し、研究状況を報告すること。 ③ 論文や発表会などの期日を確実に守ること。 ④ 質問や回答はclassroomを活用する。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
		レポート	45	①		✓	卒業論文の最終稿に以下の項目について評価する。 ・指定された書式に従い、誤字脱字なく書かれている。 ・序には、研究目的と研究仮説が明記してある。 ・方法には、研究が再現可能な情報が明記してある。 ・結果には、適切なデータ処理が行われている。 ・考察には、科学的に結論が導き出されている。
				②		✓	
③				✓			
④				✓			
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		45	①	✓	卒業研究発表会でのプレゼンテーションと質疑に対する応答を評価する。 ・スライドや発表は分かり易く構成できたか。 ・話し方は聞き取りやすかったか。 ・質疑に対し自分の言葉で応答できたか。		
			②	✓			
	③		✓				
	④		✓				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	【主体性】自ら研究仮説を立案できる。 【実行力】立案した研究計画をやり遂げる。 【課題発見力】得られたデータを科学的に評価できる。 【創造力】既往研究から、斬新な研究仮説を立てられる。 【発信力】研究成果を、口頭発表と論文で正確に発表できる。 【傾聴力】教員や他者からの意見を正確に理解し、自分の意見を述べる ことができる。 【規律性】ゼミを欠席しない。論文や発表の期限を守れる。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>① 卒業論文は、研究結果を科学的な思考で結論付け、自らの言葉で、体裁の整った文章としてまとめている。</p> <p>② 研究発表会では、自らの研究内容を、基礎知識のない聴衆にも理解できるよう、分かりやすくまとめ報告ができる。また、質疑に対しの確に応答できる。</p> <p>上記①、②および社会人基礎力を総合的に評価し、特に優れているものをS(秀)、優れているものをA(優)とする。① 卒業論文は、体裁の整った文章であり、理論的な文章である。</p> <p>② 研究発表は、聞き取りやすい話し方と分かり易いスライドで発表し、質疑を理解し、簡潔に応答できる。</p>	<p>① 卒業論文は、体裁の整った文章であり、理論的な文章である。</p> <p>② 研究発表は、聞き取りやすい話し方と分かり易いスライドで発表し、質疑を理解し、簡潔に応答できる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-2	測定プロトコールと研究テーマの決定	討論 実験	①1) 体重、2) 体温、3) 心拍数、4) 血圧の測定プロトコールを決定できる。 ②研究仮説を決定できる。	(予習) 図書館やインターネットによる文献検索をする。 (復習) 実験データを纏める。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3-4	研究計画の決定	討論 実験 発表	①1日24時間の変動を測定する項目を決定できる。 ②研究仮説に関連する先行研究を収集し、理解できる。 ③上記をまとめ、研究計画を決定できる。	(予習) 図書館やインターネットによる文献検索をする。 (復習) 実験データを纏める。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5-11	実験の遂行	討論 発表 実験	①具体的な研究方法を決め、スケジュールを立案できる。 ②計画に沿って実験を遂行できる。	(予習) 図書館やインターネットによる文献検索をする。 (復習) 実験データを纏める。	630	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12-15	中間纏め 研究計画の再考	討論 発表 実験	①中間纏めの結果を検討し、研究計画の妥当性を評価できる。 ②研究計画を綿密に立て直すことができる。	(予習) 中間纏めでの疑問点を、文献検索し解決する。より妥当性のある方法を検索する。 (復習) 実験データを纏める。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-20	研究遂行 中間報告評価	討論 発表 実験	①研究計画に沿って、研究を進めることができる。 ②中間結果を発表し、ゼミ内で意見交換できる。	(予習) 研究過程で生じた疑問を、文献検索し解決する。 (復習) 文献を読み込む。	450	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21-24	研究遂行	討論 実験	①研究計画に沿って、研究を進めることができる。 ②結果を解析し、ゼミ内で意見交換できる。	(予習) 解析の妥当性につき、文献検索し、解決する。 (復習) 実験データを纏める。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
25-28	データ解析とまとめ、 研究発表会準備	討論 発表会練習	データ解析の妥当性を評価し、ゼミ内で意見交換し、結果を理論的にまとめられる。 発表原稿、スライドを分かり易く作成できる。	(予習) 結果についての疑問点を、文献検索し、解決する。 (復習) 発表を磨き上げる。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
29-30	卒業研究発表 卒業論文の執筆	討論 発表	研究内容を明確に聴衆に伝えられる卒業研究発表ができる。 研究目的に沿った卒業論文を作成、提出できる。	(予習) 実験結果をまとめ、必要な資料や文献を収集し、理解を深める。 (復習) 卒業論文を磨き上げる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103K	卒業研究(竹村ひとみ) Graduation research	竹村ひとみ			4	必修	3、43年後期・4年前期

科目の概要

本科目は、大学で学修した基礎的専門的知識や技能を活用し、集大成として取り組む。そのため、DP1に記載された建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を發揮・修得して、課題解決に繋げる。また、DP2に記載された管理栄養士に必要な専門知識・技能を身に付け、豊かな食生活と健康を創造することに加え、DP3に記載された自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができることを意識して取り組む。先行研究を熟読し、課題やその重要性を踏まえ、研究目的・計画に沿って調査・実験を実施する。得られたデータを解析し、その成果を論文としてまとめ、発表を行う。

学修内容	到達目標
① 先行研究に関する論文・著書を検索、まとめることにより、相互に内容の理解を深める。 ② 先行研究を基に、研究目的を明確にする。 ③ 研究目的に沿って研究計画を立てる。 ④ 研究計画に沿って調査・実験を実施する。 ⑤ 研究過程で生じた課題に対して討論や再考を行う。 ⑥ 研究成果をまとめ、論文執筆・発表を行う。	① 先行研究に関する論文・著書を検索、まとめることにより、相互に内容の理解を深めることができる。 ② 先行研究を基に、研究目的を明確にすることができる。 ③ 研究目的に沿って研究計画の立案することができる。 ④ 研究計画に沿って調査・実験することができる。 ⑤ 研究過程で生じた課題を解決し、結論を導き出すことができる。 ⑥ 研究成果を論文にまとめ、発表することができる。

学生に發揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	自ら必要な情報を収集しながら、研究に取り組むことができる。
	働きかけ力	周囲と協同して研究に取り組むことができる。
	実行力	立案した計画に基づき、研究に取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	得られた情報や結果から課題を発見することができる。
	計画力	計画的に研究や論文執筆、成果発表に取り組むことができる。
	創造力	発見した課題や疑問を解明するためにどうすればよいか考えることができる。
チームで働く力	発信力	論文紹介、成果発表に向けて準備を行い、皆に伝わる発表を心掛ける。
	傾聴力	論文紹介やディスカッション、成果発表では、発表者の話をよく聞き、意見や質問がある場合には積極的に発言する。必要なことは必ずメモを取る。
	柔軟性	相手を尊重して意見交換することができる。
	状況把握力	周囲と協同して研究やディスカッションできるよう行動できる。
	規律性	無断欠席、遅刻などゼミ活動に支障をきたす行動をせず、ルールを守ることができる。提出物を期限までに提出できる。
	ストレスコントロール力	何事も自己成長の場と捉えて行動を起こすことができる。

テキスト及び参考文献

テキスト：なし。必要に応じて、資料、文献、書籍を提示する。
 学術資料データベース：J-Stage、CiNii、PubMed等を活用する。

他科目との関連、資格との関連

学修した全ての科目の知識・技能を活用する。
 栄養士、管理栄養士、栄養教諭一種と関連する。

学修上の助言	受講生とのルール
--------	----------

卒業研究では、いろいろな壁にぶつかることもあるが、粘り強く取り組み、今まで学修してきたことをフルに活用し、新たなことを探求する楽しさを味わって欲しい。	研究室の一員であるという意識を持つこと。挨拶をはじめ、必要な報告、連絡、相談は欠かさず、協力し合いながら取り組んで欲しい。 Google classroomを活用し、資料の配付や課題の提出を行うこともある。
---	--

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①	⑥			
			②				
			③				
			④				
			⑤				
	小テスト	0	①	⑥			
			②				
			③				
			④				
			⑤				
	レポート	50	①	✓		⑥	卒業論文について、以下の観点で評価する。 ・論文としての体裁が整っている。 ・研究の目的と結論が明確に記述されている。 ・研究の背景や意義、方法や考察が的確に記述されている。 ・文章は論理的かつ明快で分かりやすい。 ・図表は分かりやすく適切に示されている。 <pisa型学力の評価> 知識の獲得（到達目標①）20% 知識の活用（到達目標①②③④）40% 獲得した知識を活用した課題解決（到達目標⑤⑥）40%
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	40	①	✓	⑥	研究口頭発表について、以下の観点で評価する。 ・研究の内容をよく理解している。 ・発表力がある。 ・発表媒体は分かりやすく適切である。 ・質問に対して的確な受け答えができる。		
		②	✓				
		③	✓				
		④	✓				
		⑤	✓				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	⑥	（主体性）自ら必要な情報を収集しながら、研究に取り組む。 （働きかけ力）周囲と協同して研究に取り組むことができる。 （実行力）立案した計画に基づき、研究に取り組む。 （課題発見力）得られた情報や結果から課題を発見する。 （計画力）計画的に研究や論文執筆、成果発表に取り組むことができる。 （創造力）発見した課題や疑問を解明するためにどうすればよいか考える。 （発信力）論文紹介、成果発表に向けて準備を行い発表ができる。 （傾聴力）発表者の話をよく聞き、意見や質問がある場合には積極的に発言する。必要なことは必ずメモを取る。 （柔軟性）相手を尊重して意見交換することができる。 （状況把握力）周囲と協同して研究やディスカッションできるよう行動できる。 （規律性）ルールを守り、時間や提出物の提出期限を守る。 （ストレスコントロール力）何事も自己成長の場と捉えて行動を起こすことができる。	
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S(秀)は、卒業論文並びに発表において、研究の背景や意義、目的が明確であり、方法、結果、考察、結論を、文章や図表を用いて的確に表現し、優れた論文を作成することができる。質問に対し、的確な受け答えができる。研究の過程で、自ら率先して課題を見付け、常に意欲をもって取り組むことができる。 A(優)は、上記の項目に対し、的確にまとめ、受け答えすることができる。	卒業論文並びに発表において、研究の背景や意義、目的が示され、方法、結果、考察、結論を、文章や図表を用いて、表現することができる。質問に対し、受け答えができる。研究の過程で、意欲的に取り組むことができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-2	オリエンテーション 研究テーマの紹介	説明 質疑	説明した内容を理解できる。	(予習) 資料を通読する。 (復習) 自分の考えをまとめる。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
3-6	文献検索 論文講読	演習 討論	キーワードを基に文献を検索でき、その内容を分かりやすくまとめ、発表できる。	(予習) 検索方法を修得する。 論文を読み、不明な点を調べ、発表の準備を行う。 (復習) 質問の内容を調べ、答えられるようにする。	720	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
7-10	研究計画の立案 研究手法の修得	演習 討議	先行研究、参考文献を基に研究計画を立てることができる。 研究手法を理解し身に付けることができる。	(予習) 先行研究や参考文献を通読し、理解する。 (復習) 研究手法を振り返る。	720	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
11-24	調査・実験の実施	調査・実験 討議	計画に基づき、調査・実験を実施することができる。途中経過をまとめ発表することができる。	(予習) 計画を理解し、準備を行う。 (復習) 新たに生じた課題を明確にし、解決策を考える。	520	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
25-28	発表要旨作成 論文作成	演習 討議	作成要領に沿って研究成果をまとめることができる。	(予習) 論文を作成するにあたり、必要な資料や文献を調べ理解する。 (復習) 指摘があった部分を修正する。	720	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
29-30	発表媒体作成 発表練習	演習 プレゼンテーション 討議	発表形式に則った媒体を作成し、発表することができる。	(予習) 指摘があった部分を修正し、準備する。 (復習) より良い発表ができるよう繰り返し練習をする。	360	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103L	卒業研究(館和彦)	館和彦			4	必修	3後期・4前期3年後期・4年前期

科目の概要

DP2に記載されている疾病・疾病予防・食育に関する専門知識・技能を身に付け、豊かな食生活と健康を創造することができる管理栄養士の育成を目指します。また、DP1記載の建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得して課題を解決していくことができるよう、学修の取り組み姿勢を通してその基盤も形成します。

「卒業研究」は、これまで修得した基礎・専門知識を基に研究計画を立て、それぞれの研究テーマに従って調査・実験・試作等を実施する。得られた研究成果を多角的な視点で考察しまとめ、卒業研究発表会での発表と卒業論文作成を行う。

学修内容	到達目標
① 研究内容の検索・理解を行う。 ② 実験の計画・実行を行う。 ③ 実験結果を基に考察を行う。 ④ 実験結果をまとめ発表を行う。 ⑤ 実験結果を整理・精査して論文作成を行う。	① 設定した研究テーマの意義と目的を説明できる。 ② 必要な調査・実験・試作を行い、自主的に研究を進められる。 ③ 得られたデータを適切に解析し、課題を発見できる。 ④ 卒業研究発表会で、得られた結果をわかりやすくプレゼンテーションできる。 ⑤ 卒業論文を、論理的かつ簡潔に記述し、完成できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	研究をすすめるために、P（計画）D（実行）C（チェック）A（実行）を自ら実践する
	働きかけ力	研究室メンバーに影響力を与える行動へと進めることができている。
	実行力	立案した研究計画に沿って、調査・実験・試作を実行する
考え抜く力	課題発見力	得られたデータを適切に解析し、課題を発見する
	計画力	課題を解決するために計画したことができている。
	創造力	既存の理論や得られた結果から、新たな発想、アイデアを考える
チームで働く力	発信力	研究の進捗や自らの考え・アイデアを仲間や教員へ、報告・連絡・相談する
	傾聴力	仲間や教員の意見を聞き取り、聞き取った内容と自分の理解をすり合わせる
	柔軟性	自分と相手の意見・考え・提案を整理して、目的・目標に向かって前進させる意見をいうことができている。
	状況把握力	物事がどのように進行しているか把握できる。
	規律性	決められたルールについて、設定の意味を理解した上で守る
	ストレスコントロール力	ストレスを感じる出来事を自分の成長の機会だとポジティブに捉えた行動ができている。

テキスト及び参考文献

研究テーマ毎に必要なに応じて、テキスト・文献などを指示する。

他科目との関連、資格との関連

「卒業研究」は、これまで履修したすべての科目で得た知識や技術を活用する。同時期に履修する「専門実践実習」と関連させながら理解を深める。さらに将来、職場や地域の人々と協働して課題を解決する際に役立つ科目である。

資格との関連：栄養士、管理栄養士、栄養教諭

学修上の助言	受講生とのルール
4年間の修学の集大成として、研究論文を作成するために日々努力して下さい。そして、研究することの喜びや楽しさを感じて欲しい。	卒業研究を実践するための研究室は、一つの組織です。その一員であることを自覚し、活動に際しては、決められた約束・予定を守ること。報告・連絡・相談を仲間・教員と丁寧に行って下さい。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	0	①			
			②			
			③			
			④			
			⑤			
	平常評価	小テスト	0	①		
				②		
				③		
				④		
				⑤		
		レポート	60	①	✓	
				②	✓	
				③	✓	
				④	✓	
				⑤	✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	30	①	✓			
		②	✓			
		③	✓			
		④	✓			
		⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓		
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
総合評価割合		100				

卒業論文の最終稿を評価対象とする。
 ・論文として必要最低限の体裁が整っているか。
 ・研究の目的と結論が明確に述べられているか。
 ・研究の背景や意義、方法や考察が的確に記述されているか。
 ・文章は論理的かつ明快でわかりやすいか。
 ・図表類はわかりやすく適切に作成されているか。

【課題の解決（100%）】
 卒業研究発表会でのプレゼンテーションを評価対象とする。
 ・研究の内容をよく理解しているか。
 ・発表力があるか（態度、声の大きさ、話す態度、質疑応答など）
 ・発表の媒体はわかりやすく適切か。
 ・発表要旨はよくまとめているか。
 ・質問に対して的確に受け答えをすることができたか。

（主体性）
 ・研究をすすめるために、P（計画）D（実行）C（チェック）A（実行）を自ら実践 することができる（実行力）
 ・立案した研究計画に沿って、調査・実験・試作を実行することができる（課題発見力）
 ・得られたデータを適切に解析し、課題を発見することができる（創造力）
 ・既存の理論や得られた結果から、新たな発想、アイデアを考える（発信力）
 ・研究の進捗や自らの考え・アイデアを仲間や教員へ、報告・連絡・相談することができる（傾聴力）
 ・仲間や教員の意見を聞き取り、聞き取った内容と自分の理解をすり合わせるすることができる（規律性）
 ・決められたルールについて、設定の意味を理解した上で守ることができる
 例）研究室における決まりごとの順守など

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S(秀)・・・卒業論文は、研究の背景や意義、方法や考察が的確に記述され、目的と結論も明確に述べられ、かつ文章がわかりやすく、図表類も適切に作成されている。卒業研究発表は、研究内容をよく理解し、発表力に優れ、媒体もわかりやすく、質問に対して的確に受け答えができている。</p> <p>A(優)・・・卒業論文は、研究の目的と結論が明確に述べられ、かつ文章がわかりやすく、図表類も適切に作成されている。卒業研究発表は、研究内容をよく理解し、発表力に優れ、媒体もわかりやすく適切である。</p>	<p>B(良)・・・卒業論文は、文章がわかりやすく書かれており、図表類も適切に作成されている。卒業研究発表は、研究内容をよく理解し、わかりやすく発表ができている。</p> <p>C(可)・・・卒業論文は、文章が概ねわかりやすく書かれている。卒業研究発表は、研究内容を理解し発表ができている。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-2	オリエンテーション 研究テーマの検討・決定	討議 ディスカッション(対面・google classroom)	研究テーマの概要を理解できる	予習：研究テーマに関する質問を考えておく。 復習：テーマの概要を研究ノートに記載する。	360	課題発見力 発信力 傾聴力
3-4	論文検索 論文閲読	論文閲読 ディスカッション(対面・google classroom)	研究テーマに関連した論文を検索できる	予習：自分で論文を検索し、閲読する。 復習：閲読した内容を研究ノートに記載する。	360	主体性 実行力 課題発見力
5-6	研究目的・方法の検討 プレゼンテーション	討議 プレゼンテーション ディスカッション(対面・google classroom)	研究の目的・方法を説明できる	予習：研究目的・方法について自分の意見をまとめておく。 復習：研究ノートに記載する。	360	創造力 発信力 傾聴力
7-8	研究計画の立案 研究準備	討議 ディスカッション(対面・google classroom)	研究計画を立案できる 調査・実験・試作を実践できる	予習：研究計画を立ててみる。 復習：研究ノートに研究計画を記載する。	360	主体性 創造力 発信力
9-10	予備調査・実験・試作 実験結果のまとめ	調査・実験・試作 データ分析 ディスカッション(対面・google classroom)	調査・実験・試作を実践できる	予習：実験の準備をしておく。 復習：実験結果を研究ノートにまとめ、分析し、課題を見つける。	360	主体性 実行力 課題発見力
11-12	予備調査・実験・試作 実験結果のまとめ	調査・実験・試作 データ分析 ディスカッション(対面・google classroom)	調査・実験・試作を実践できる	予習：実験の準備をしておく。 復習：実験結果を研究ノートにまとめ、分析し、課題を見つける。	360	主体性 実行力 課題発見力
13-14	研究内容の見直し 本調査・実験・試作 実験結果のまとめ	討議 ディスカッション(対面・google classroom)	研究の進め方・方向性を見直し、説明できる。	予習：これまでの研究の結果と問題点について、自分の意見をまとめておく。 復習：見直した内容を研究ノートに書く。	360	創造力 発信力 傾聴力
15-16	本調査・実験・試作 実験結果のまとめ	調査・実験・試作 データ分析 ディスカッション(対面・google classroom)	調査・実験・試作を実践できる	予習：実験の準備をしておく。 復習：実験結果を研究ノートにまとめ、分析し、課題を見つける。	360	主体性 実行力 課題発見力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
17-18	本調査・実験・試作 実験結果のまとめ	調査・実験・試作 データ分析 ディスカッション(対面・google classroom)	調査・実験・試作を実践できる	予習：実験の準備をしておく。 復習：実験結果を研究ノートにまとめ、分析し、課題を見つける。	360	主体性 実行力 課題発見力
19-20	中間報告 追加調査・実験・試作 実験結果のまとめ	プレゼンテーション 調査・実験・試作 データ分析 ディスカッション(対面・google classroom)	研究の総括をプレゼンテーションできる。	予習：これまでの研究の結果と問題点について、自分の意見をまとめておく。 復習：見直した内容を研究ノートに書く。	360	発信力 傾聴力 規律性
21-22	追加調査・実験・試作 実験結果のまとめ	調査・実験・試作 データ分析 ディスカッション(対面・google classroom)	調査・実験・試作を実践できる	予習：実験の準備をしておく。 復習：実験結果を研究ノートにまとめ、分析し、課題を見つける。	360	主体性 実行力 課題発見力
23-24	論文の書き方・まとめ 方の学修 論文作成	講義 論文作成 ディスカッション(対面・google classroom)	論文の書き方を説明できる	予習：論文の書き方の本を読んでおく。 復習：自分で論文を作成する。	360	主体性 創造力 傾聴力
25-26	論文作成	討議 論文作成 ディスカッション(対面・google classroom)	論文を決められた体裁でまとめ、提出できる。	予習：論文作成の問題点を挙げておく。 復習：作成した論文をよく見直し、提出する。	360	実行力 発信力 規律性
27-28	発表要旨作成	討議 発表要旨・媒体作成 ディスカッション(対面・google classroom)	発表要旨を決められた体裁で、作成できる。	予習：研究内容をよく理解しておく。 復習：作成した発表要旨・媒体をよく見直し、完成させる。	360	課題発見力 創造力 傾聴力
29-30	研究論文発表の準備	発表練習 プレゼンテーション ディスカッション(対面・google classroom)	作成した発表ツールを使って、発表できる	予習：発表練習を繰り返し、行っておく。 復習：発表練習を繰り返し、行っておく。	360	実行力 発信力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103M	卒業研究(林明日香) Graduation Research	林明日香			4	必修	3・4後期・前期
科目の概要							
この科目は、DP1・2・3に記載されている教育理念に基づき、管理栄養士に必要な疾病治療・疾病予防・食育に関する専門的知識・技能を發揮し、疾病治療につながる食生活を創造することを目的とする。1人1テーマとして取り組む研究過程を通じ、研究における科学的アプローチを理解しながら論理的な探索手段を身に付ける。ゼミの進め方は、各グループの進捗状況の確認と論文の抄読会を毎週実施する。							
学修内容				到達目標			
① 卒業論文に関する論文・著書を検索し、テーマを設定する。 ② 研究テーマに沿って、研究目的を明確にし、研究計画を立てる。 ③ 研究計画に沿って調査を実施する。 ④ 研究によって得られたデータを基に、口頭発表や論文にまとめる。				① 卒業論文に関する論文・著書を検索し、テーマを設定できる。 ② 研究テーマに沿って、研究目的を明確にし、研究計画を立てることができる。 ③ 研究計画に沿って調査を実施することができる。 ④ 研究によって得られたデータを基に、口頭発表や論文にまとめることができる。			
学生に發揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	主体性を持ち、対象の現状把握からテーマを見つけることができる。					
	働きかけ力	研究に対する働きかけが実行できる。					
	実行力	研究計画に従い、研究を実行することができる。					
考え抜く力	課題発見力	課題発見をしながら、図表を工夫しまとめることができる。					
	計画力	計画的に研究を実施でき、期日までに論文を提出できる。					
	創造力	創造力を發揮しながら、得られたデータを深く考察することができる。					
チームで働く力	発信力	研究データをまとめ、研究発表において論理的に発信することができる。					
	傾聴力	傾聴力を發揮しながら、柔軟に研究をまとめることができる。					
	柔軟性	得られたデータに対し柔軟性を發揮し、多方向から考察できる。					
	情況把握力	情況把握しながら、臨機応変に研究内容を変更することができる。					
	規律性	規律性を保ち、論文をまとめ提出することができる。					
	ストレスコントロール力	ストレスの状況においても、新たな視点で発想の転換をすることができる。					
テキスト及び参考文献							
参考書：文献検索において各自が集めた論文や臨床栄養に関連する書籍。 統計に関連する書籍。							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：これまで履修したすべての科目 資格：管理栄養士、栄養士、栄養教諭							
学修上の助言				受講生とのルール			
将来管理栄養士として、エビデンスに基づいた栄養指導や栄養管理ができるよう、4年間の集大成として卒業論文に臨むこと。				学生自身がが主体性をもって教員と連絡をとりあい、相談を繰り返しながら、計画的に自分のテーマに沿って研究に取り組むように心がけてください。			

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
		レポート	50	①		✓	学科内で規定された評価表に従い卒業論文を評価する。 ・論文として体裁が整っている。 ・研究の目的と結論が明確に記述されている。 ・研究の背景や意義、方法や考察が的確に記述されている。 ・文章は論理的かつ明快でわかりやすい。 ・図表はわかりやすく適切に示されている。
				②		✓	
				③			
				④		✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	40	①		学科内で規定された評価表に従い口頭発表を評価する。 ・研究の内容を理解している。 ・発表力がある。 ・発表の媒体はわかりやすく適切である。 ・質問に対して適切な受け答えができる。			
		②	✓				
		③					
		④	✓				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性）主体性を持ちながらテーマを見つけることができる。 （実行力）研究計画に従い、研究を実施することができる。 （課題発見力）課題発見しながら、図表を工夫しまとめができる。 （創造力）創造力を発揮しながら、データを深く考察できる。 （発信力）研究データをまとめ、論理的に発信できる。 （傾聴力）傾聴力を発揮し柔軟に研究をまとめることができる。 （規律性）規律性を保ち、論文をまとめ提出することができる。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
研究活動に関する評価、卒業論文に関する評価、プレゼンに関する評価の3つの項目において、特に優れており、人間栄養学に発展させた考察ができるものをS(秀)とする。左記の評価が標準レベル以上に組み組めているものをA(優)とする。	上記の評価が、十分ではないが標準的に取り組んでいるものをB(良)とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	オリエンテーション 研究テーマの検討・決定 文献検索・仮説の設定を学ぶ	講義 ディスカッション	研究テーマを立案できる。 研究テーマに関連した論文を検索し、仮説に沿った研究計画を立てることができる。	(予習) 先行研究を読む。 (復習) 研究の仮説をたてる。	900	課題発見力 計画力 創造力 傾聴力
6-10	研究計画の立案と準備を学ぶ	講義 ディスカッション	研究の目的方法を明確にし、説明できる。 研究計画に従い準備ができる。	(予習) 先行研究を読む。 (復習) 研究計画書を作成、予備調査を実施し、実施に向けて調整する。	900	主体性 働きかけ力 実行力 傾聴力
11-24	研究の実施を学ぶ	実習 ディスカッション 論文作成	研究計画に従い実施し、データを収集、統制処理をしながらまとめることができる。	(予習) データを収集する。統計的手法を確認する。 (復習) データ分析し、図表にまとめる。論文作成に必要な資料や文献を調べまとめる。	250	実行力 課題発見力 傾聴力 柔軟性 状況把握力
25-27	データ分析・研究発表媒体準備 発表練習・論文作成を学ぶ	実習 ディスカッション 論文作成	研究内容をまとめ、発表に向けた分析ができ、研究要旨やスライドを準備することができる。	(予習) 統計的手法を活用理解しながら、スライドを準備できる。 (復習) 論文作成に必要な資料や文献を調べ、データ分析し、論文をまとめる。	540	実行力 課題発見力 傾聴力 ストレスコントロール力
28-30	発表・論文作成・提出を学ぶ	実習 論文作成 ディスカッション	発表形式に則り、時間内に発表が実施できる。発表で指摘された内容を考慮し、論文を整理し、決められた体裁で、期日までに論文を提出できる。	(予習) データをまとめ、研究発表のまとめを行う。 (復習) 指摘された内容を考慮し、論文作成し提出する。	540	課題発見力 創造力 発信力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103N	卒業研究(舟橋由美) Graduation research	舟橋由美			4	必修	3・43年後期・4年前期
科目の概要							
大学での学修の集大成として、各自のテーマに沿って研究を行う。管理栄養学科のディプロマ・ポリシーの①・②・③を目指し、大学生活で修得した建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を発揮して、研究で得られた成果を科学的に分析し、考察したものを卒業論文としてまとめる。							
学修内容				到達目標			
① 先行研究から課題を抽出する。 ② 研究テーマを設定し、目的を明確にする。 ③ 研究目的に沿って研究計画を立てる。 ④ 研究計画に沿って調査・実験を行う。 ⑤ 研究成果をまとめ、論文執筆・発表を行う。				① 解決すべき現象や問題を整理し、研究課題を明らかにできる。 ② 研究テーマを設定し、研究目的を明らかにすることができる。 ③ 研究目的に沿って研究計画を立てることができる。 ④ 研究計画に沿って調査・実験を進め、得られたデータを適切に解析できる。 ⑤ 得られた研究成果を論文にまとめ、分かりやすくプレゼンテーションできる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	必要な情報を自ら収集し、研究に取り組むことができる。					
	働きかけ力						
	実行力	立案した計画に基づき、調査や実験に取り組むことができる。					
考え抜く力	課題発見力	得られた情報から課題を発見することができる。					
	計画力						
	創造力	研究課題を解明するために何をすべきかを考えることができる。					
チームで働く力	発信力	研究結果について指導教員や研究室の仲間同士で討論することができる。					
	傾聴力	指導教員や研究室の仲間からの意見や質問に対し、自らの研究課題の解決に向けた受け取り方ができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	研究室のルールや打ち合わせ事項、卒業論文に関する資料の提出期日を守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
研究テーマに応じて必要な資料や書籍、文献を提示する。							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：これまでに履修したすべての科目 資格との関連：栄養士、管理栄養士、栄養教諭							
学修上の助言				受講生とのルール			
食品や調理の分野で何が求められているのか、何ができるのかを考え、常に疑問を持ち、疑問の解決に向けて自主的に取り組んでいきましょう。そして、卒業研究を通じて新たなことを探求する楽しさを感じて欲しい。				卒業研究は主体的に学ぶ意欲がないと遂行できないが、一人だけで遂行できるものでもないため、研究室の一員であることを意識し、教員および研究室の仲間と協力して活動に取り組むこと。また、必要な報告、連絡、相談は欠かさないこと。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		60	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		30	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
レポート、成果発表、社会人基礎力の得点とで総合的に評価する。その得点が90～100点であればS（秀）、80～89点であればA（優）とする。	レポート、成果発表、社会人基礎力の得点とで総合的に評価する。その得点が70～79点であればB（良）、60～69点であればC（可）とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション	演習 質疑対応：Google classroomも利用	説明した内容を理解できる。	〔予習〕資料に目を通しておく。 〔復習〕自分の考えをまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2-5	研究テーマの検討・決定	演習・ディスカッション 質疑対応：Google classroomも利用	研究テーマの概要を説明できる。	〔予習〕文献検索をする。 〔復習〕文献を熟読し、自分の考えをまとめる。 【参考】東京大学本部情報基盤課「参考文献リストの見かた」 https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/database/manual/sankobunkenmikata.pdf	720	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-8	文献検索・論文購読	演習・ディスカッション 質疑対応：Google classroomも利用	研究テーマに関連した論文を検索できる。	〔予習〕論文を読み、疑問点を明らかにする。 〔復習〕理解できなかったことは書籍等で調べる。	540	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
9-14	研究計画の立案 予備調査・実験の実施 研究計画の再考	演習・調査・実験・ディスカッション 質疑対応：Google classroomも利用	研究計画を立案できる。 計画に基づき、調査・実験を実践できる。	〔予習〕予備調査・実験の計画を立てられるよう、調査・実験方法を調べておく。 〔復習〕調査結果や実験結果を分析し、課題を見つける。必要に応じて文献を読み、理解を深める。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15-24	研究の実施 調査・実験結果のまとめ	演習・調査・実験・ディスカッション 質疑対応：Google classroomも利用	計画に基づき、調査・実験を実践できる。	〔予習〕研究過程で生じた疑問や課題を文献検索し、次の調査や実験に繋げられるようにする。 〔復習〕調査結果や実験結果を分析し、必要に応じて文献を読み、理解を深める。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
25-30	論文執筆・発表準備 質疑対応：Google classroomも利用	演習・ディスカッション	論文作成要領に従って研究成果をまとめ、提出および発表することができる。	〔予習〕論文執筆に必要な資料や文献を収集しておく。 〔復習〕指導教員と充分に討論し、卒業論文の加筆・修正を行う。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
2661341030	卒業研究(増田尚)	増田尚			4	必修	3月4日3年後期・4年前期

科目の概要

建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力(DP1)を發揮して、栄養学の専門知識を活用して(DP2)、社会に貢献できる(DP3)、管理栄養士の育成を目指す。卒業研究では、栄養関連の論文より課題を抽出し、その課題を解決するための実験計画を立案・実施し、得られた実験データより課題解決できるための新知見を明らかにする卒業研究を行う。

学修内容	到達目標
① 先行研究、過去の卒業論文から課題を抽出する。 ② 研究課題を明らかにする ③ 研究目的に沿って研究計画を立てる。 ④ 研究計画に沿って研究を遂行し、データを収集して分析を行う。 ⑤ 研究によって得られた結果をまとめ、論文および要旨を作成し、口頭発表を行う。	① 解決すべき現象・問題・疑問事項を整理し、研究課題を明らかにすることができる。 ② 研究課題を決定し、研究目的を明らかにすることができる。 ③ 研究目的に沿って計画を立てることができる。 ④ 研究計画に沿って研究を遂行し、データ収集および分析ができ考察できる。 ⑤ 得られた結果をまとめ、論文および要旨を作成し、口頭で発表することができる。

学生に發揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	過去の実験結果を基に課題点を明確にし、研究に望むことができる。
	働きかけ力	研究室メンバーに影響力を与える行動へと進めることができている。
	実行力	立案した研究計画に沿って研究を遂行することができる。
考え抜く力	課題発見力	研究結果を予測し、なぜそのような結果になったかを引用文献を活用して考察できる。
	計画力	課題を解決するために計画したことができている。
	創造力	研究結果を多角的に分析することができる。
チームで働く力	発信力	研究結果について、指導教員と討論できる。
	傾聴力	教員や研究室メンバー意見との交換を活発にし、理論的に自分の意見を述べるができる。
	柔軟性	自分と相手の意見・考え・提案を整理して、目的・目標に向かって前進させる意見をいうことができている。
	情況把握力	物事がどのように進行しているか把握できる。
	規律性	研究室のルールを守り、無断欠席、遅刻等、研究に支障をきたす行動をせず、事故がないよう、周りにも配慮しながら研究に取り組むことができる。期日に卒業論文が提出できる。
ストレスコントロール力	ストレスを感じる出来事を自分の成長の機会だとポジティブに捉えた行動ができている。	

テキスト及び参考文献

研究テーマに応じて、必要な書籍や文献、資料を提示する。

他科目との関連、資格との関連

家政学部共通科目及び管理栄養学科専門科目を履修した後に、卒業研究を履修する。この科目を履修することにより、学位授与基準の水準に到達する。

資格との関連：管理栄養士、栄養士、栄養教諭

学修上の助言	受講生とのルール
これまでに学修した内容の集大成という気持ちを持って、研究テーマを決め実験計画書を作成する。研究は教員からの指示を待つのではなく、自分から意欲的に取り組み、常に疑問を持って研究に励むこと。研究を楽しみながら遂行して欲しい。	卒業研究は一人で遂行することができないため、研究室の一員としての自覚を持って、教員と他のメンバー全員で協力して行うこと。体調管理をしっかりとこなうこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
			⑤				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
		レポート	60	①	✓		(活用) 研究テーマに対する研究計画書を作成する(20%) (解決) 栄養学的に明確になっていない課題点について、研究計画書に沿って研究し、得られたデータより考察する(80%)
				②	✓		
				③	✓		卒業論文の最終稿を持って評価する。 ・指定された書式に従い、誤字脱字なく、分かりやすい文章であるか。 ・研究の目的が明確で、科学的根拠に基づいた研究がなされているか。 ・文章は論理的に書かれ、不整合や飛躍はないか。 ・表やグラフは分かりやすく示しているか。脚注の表示もされているか。 ・結論が社会的あるいは学術的に意義のある知見を含んでいるか。 ・引用文献数が15以上使用しているか。
				④	✓		
				⑤	✓		
		成果発表(プレゼンテーション・作品制作等)	30	①	✓		(活用) 研究テーマに対する研究計画書を作成する(20%) (解決) 栄養学的に明確になっていない課題点について、研究計画書に沿って研究し、得られたデータより考察する(80%)
				②	✓		
				③	✓		研究発表会の内容および質問対応を評価対象とする。 ・発表用のスライドは分かりやすく構成できたか。 ・制限時間内に分かりやすく話せたか。 ・質問には的確に答えられたか。 ・発表準備には指導教員と十分な協議をしたか。 ・原稿を見ずにプレゼンテーションできているか。 ・聞き取りやすい音量で発表できているか。
				④	✓		
				⑤	✓		
学修行動	社会人基礎力(学修態度)	10	①	✓		(主体性) 過去の実験結果を基に課題点を明確にし、研究に望むことができる。 (働きかけ力) 研究室メンバーに影響力を与える行動へと進めることができている。 (実行力) 立案した研究計画に沿って研究を遂行することができる。 (課題発見力) 研究結果を予測し、なぜそのような結果になったかを引用文献を活用して考察できる。 (創造力) 研究結果を多角的に分析することができる。 (発信力) 研究結果について、指導教員と討論できる。 (傾聴力) 教員や研究室メンバー意見との交換を活発にし、理論的に自分の意見を述べることができる。 (柔軟性) 自分と相手の意見・考え・提案を整理して、目的・目標に向かって前進させる意見をいうことができている。	
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓		(情況把握力) 物事がどのように進行しているか把握できる。 (規律性) 研究室のルールを守り、無断欠席、遅刻等、研究に支障をきたす行動をせず、事故がないよう、周りにも配慮しながら研究に取り組むことができる。期日に卒業論文が提出できる。 (ストレスコントロール力) ストレスを感じる出来事を自分の成長の機会だとポジティブに捉えた行動ができている。	
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S(秀)の基準 学修評価及び学修行動評価の得点率が90%以上</p> <p>A(優)の基準 学修評価及び学修行動評価の得点率が80%以上</p>	<p>B(良)の基準 学修評価及び学修行動評価の得点率が70%以上</p> <p>C(可)の基準 学修評価及び学修行動評価の得点率が60%以上</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-4	卒業論文、原著論文を講読し、研究テーマを決める。	学生が講読してきた原著論文や卒業論文の課題点を抽出する。 google meet及びgoogle classroomを活用する。	研究計画書が作成できる。	(予習) 論文を講読し、まとめる。 (復習) 指摘項目について調べ回答を導き出す。 1週当たりの予習復習時間を180分とします。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
5-8	実験手技を獲得する。	本実験の際に実施する実験技術を取得するまで練習する。	血液採取ができる。腹腔内注射ができる。 ELISA法の実験測定ができる。	(予習) 実験のフローシートを作成する。 (復習) 自主的に教員が立ち会わなくても実験が遂行できるまで、淡々と練習する。 1週当たりの予習復習時間を180分とします。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9-22	研究テーマの実験を実施する。血液分析、データの収集を行う。	本実験 収集したデータを処理し、実験結果の動向を確認する。指導教員と実験結果について、ディスカッションを行い、結論を導き出す。	まず、測定結果で得られた実験データから結果をまとめる。	(予習) 測定項目の実験工程の確認をする。 (復習) データの入力及び統計処理を行い、考察をする。 1週当たりの予習復習時間を180分とします。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
23-25	卒業研究発表用資料(PP及び読み原稿)を作成する。	演習・ディスカッション・発表	実験目的、方法、結果、考察について聴講者に理解ができるようなPPが作成できる。	(予習) 卒業論文発表会の資料を作成する。 (復習) PP及び原稿の加筆・修正する。 1週当たりの予習復習時間を180分とします。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
26-30	卒業論文を執筆する。	演習・ディスカッション	卒業論文に緒言、方法、結果、考察、引用文献、謝辞が揃っている。	(予習) 卒業論文の加筆・修正をする。 (復習) 卒業論文の加筆・修正をする。 1週当たりの予習復習時間を180分とします。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
266134103P	卒業研究(岸上明生) Graduation Research	岸上明生			4	必修	3・43年後期・4年前期

科目の概要

ディプロマポリシー1,2,3に記載している建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して課題を解決していくことができる。疾病・疾病予防・食育に関する専門知識・技術を身に付け、豊かな食生活と健康を創造することができ、自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる管理栄養士の育成を目指します。そのために、卒業研究では、管理栄養士にとって重要な生理学・生化学分野の知識をもとに科学研究を行い、研究発表、卒業論文を作成する。これらを実施経験は、卒業後、管理栄養士としての立場から、臨床的・栄養学的研究を行い、学会発表や論文投稿ができるような基礎力になります。

学修内容	到達目標
① 研究課題の目的設定を行う。 ② 研究の計画・実行を行う。 ③ 研究結果から目的に対応した考察を行う。 ④ 研究発表の準備を行う。 ⑤ 研究発表を踏まえて論文を作成する。	① 研究課題の目的設定ができる。 ② 研究の計画・実行ができる。 ③ 研究結果を正しく考察する事ができる。 ④ 研究結果を発表し、質疑応答に対応する事ができる。 ⑤ 研究内容をまとめて提出期限までに論文を作成できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	自分の研究テーマに関連する論文検索を行い、プロトコルを作成して実験計画・実行する事ができる。
	働きかけ力	研究グループの人に実験の分担や情報共有を依頼することができる。
	実行力	研究に必要な実験・調査を行うことができる。
考え抜く力	課題発見力	実験・調査の結果から、研究目的が考察できるように、再・追加実験方法・項目を考える事ができる。
	計画力	研究計画を作成し、被験者、実験器具・消耗品など必要な事項をリストアップできる。
	創造力	実験の計画を作成することができ、測定結果をグラフ化して結果を評価ができる。
チームで働く力	発信力	研究考察について、グループ内でディスカッションすることができる。また、共同研究者に結果を報告して議論・質疑応答ができる。
	傾聴力	実験内容についての講義・注意事項を正確に理解して、事故・失敗なく研究作業を行うことができる。
	柔軟性	予想外の研究結果について、再実験や別の考察を考える事ができる。
	状況把握力	実験、発表準備、論文作成時に進捗状況を常に把握し、期限に間に合わせて準備ができる。
	規律性	実験計画に基づき実験を実施することができる。 発表要旨、論文を期限までに作成できる。 時間厳守で卒業研究・学業全てに望む事ができる。
ストレスコントロール力	研究を進める中で、国家試験対策、就職活動が一度に重なって来ることがあるが、これら乗り越える事ができる。	

テキスト及び参考文献

実験内容に関連する学術論文
生理学・生化学の教科書、参考書

他科目との関連、資格との関連

卒業研究は「栄養士・管理栄養士、栄養教諭」に必須の専門分野の科目であり「生化学Ⅰ、Ⅱ」「生化学実験」「解剖生理学Ⅰ、Ⅱ」「解剖生理学実習Ⅰ、Ⅱ」「臨床医学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「基礎栄養学」「臨床栄養学」の知識をふるに活用して行う科目である。

学修上の助言	受講生とのルール
研究の計画・実行は元より、実験結果をいかに考察するかが重要で単が、それを支えるのは研究目的です。グループ内、共同研究者とコミュニケーションをしっかりと行い、研究目的を十分に考えて準備してください。 googleクラスルームを通して、資料の相互提供、課題提出を行います。 googleミートを利用した会議を行うことがあります。	研究遂行過程で指定された日時・時間は厳守する。 実験ノートを作成し、同時にデータとしても管理を行う。 被験者情報について守秘義務を順守する事。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		50	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		40	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）		10	①	✓		
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>卒業研究に真摯に取り組んだ結果、卒業研究の発表・論文で、研究目的を的確に説明し、方法を具体的に説明し、結果を図表を使って客観的に示し、目的に対応した考察を厳密に記述することができる場合、S(秀)である。</p> <p>卒業研究に真摯に取り組んだ結果、卒業研究の発表・論文で、研究目的を的確に説明し、方法を具体的に説明し、結果を図表にまとめて示し、目的に対応した考察を記述できている場合、A(優)である。</p>	<p>卒業研究に真摯に取り組んだ結果、卒業研究の発表・論文で、研究目的を説明し、結果を図表を使って示し、目的に対応した考察を記述できている場合、B(良)である。</p> <p>卒業研究に真摯に取り組んだ結果、卒業研究の発表・論文で、研究目的をわかりやすく説明し、目的に対応した考察を記述できている場合、C(可)である。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-3	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究内容の打合せ。 テーマ決定、各自のテーマに関連する論文検索・抄読。 共同研究者を交えて、各研究テーマについて詳細な打合せ。 	実験・ディスカッション・発表 グーグル・クラスルームのMeetを活用した打ち合わせ、参考論文の提供	自分の卒研テーマの内容を検索・検討を行い理解することができる。	予習 論文検索 復習 論文抄読 打ち合わせ結果のまとめ	600	主体性 働きかけ力 実行力 計画力 傾聴力 柔軟性 規律性
4-24	<ul style="list-style-type: none"> 実験計画作成：各自の実験内容を従って、綿密な実験計画を作成 被験者の依頼、倫理委員会に提出する資料作成 実験実施：平日も可能な実験を行うが、基本的に講義のない土曜日に実施を行う。大学行事などがある場合は日曜日にも実施する。 実験終了後、データ入力、統計解析を行い、考察のためにグラフ化を行う。 実験結果について検討を行い、再実験や追加実験の必要性を検討し、必要であれば計画案を作り実行する。 グループ内、共同研究者と結果についてディスカッションを行い、結果を考察して結論を導き出す。 全ての実験は8月上旬には終了する。 	実験・ディスカッション・発表 グーグル・クラスルームのMeetを活用した打ち合わせ、参考論文の提供	実験プロトコールを作成して実験が実施できる。実験結果を理解して、結果について考察することが出来る。実験データを処理して、統計処理を行いグラフ化する事ができる。	予習（毎実験） 実験プロトコールの確認 復習（毎実験） 結果のまとめ	240	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
25-30	<ul style="list-style-type: none"> 発表用パワーポイントを作成し、共同研究者を交えてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行ってブラッシュアップする。 発表要旨の作成を行う。 卒業研究論文を同時に作成する。 発表用パワーポイントの完成版を作成し、グループ内で入念に発表練習を行う。 発表終了後、質問やコメントを精査して論文に反映させて完成させ提出する。 卒業研究論文提出後も、グループで国家試験対策を計画・実施する。 	実験・ディスカッション・発表 グーグル・クラスルームのMeetを活用した打ち合わせ、模擬発表、共同研究者とのディスカッション	発表用プレゼンテーション、論文作成が出来る。	予習 実験データの確認 復習 実験結果についての考察	420	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力